

授業科目名：情報リテラシーと情報倫理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中嶋康二
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
① 情報社会で必要とされる基本的な情報活用（情報収集、分析、評価、生成AIを含むICTツール利用）ができるようになる			
② 情報の信頼性やプライバシー保護、著作権などの知的財産権及び情報倫理について説明できるようになる。			
③ 情報を適切に扱うための倫理観に基づいた行動の選択ができるようになる。			
授業の概要			
情報社会で必要とされる情報の活用能力と、情報を適切に扱うための倫理観を学ぶ。情報の収集、分析、評価、利用方法を学び、情報の信頼性やプライバシー保護、著作権などの知的財産権及び情報倫理について理解を深める。デジタル時代における情報の扱い方を学ぶことで、情報を活用し、適切に扱う能力を習得する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション／情報活用の意義			
第2回：情報収集の基本：効果的な検索と情報源の見極め			
第3回：収集した情報の分析：目的に応じた整理と可視化			
第4回：生成AIの活用：文章生成や要約など有効活用方法の実践			
第5回：情報評価の視点：事実確認とバイアスへの注意			
第6回：情報倫理の基礎：社会的影響と個人の責任			
第7回：プライバシー保護：個人情報とデータセキュリティ			
第8回：著作権・知的財産権の基本：引用・転載のルール			
第9回：デジタル時代のコンテンツ制作とライセンス			
第10回：SNSと情報拡散：フェイクニュースと炎上リスク			
第11回：ケーススタディ：情報漏洩・プライバシー侵害事例の検証			
第12回：ICTツールを活用したグループワーク：情報収集から発信まで			
第13回：成果発表：データの可視化と説得力のあるプレゼンテーション			
第14回：演習：情報倫理の意思決定ロールプレイ_適切な行動選択			
第15回：総括と振り返り：今後の学びに活かす情報活用と倫理観			
テキスト（※技術進展による必要性に応じて更新する可能性がある）			

『改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ』FOM出版，2021年
参考書・参考資料等 『〔改訂新版〕はじめてのAIリテラシー（基礎テキスト）』技術評論社，2024年 適宜、資料等を配付する。
学生に対する評価 ① 知識テスト（学習目標②に対応） 10% ② 実技レポート・ポートフォリオ（学習目標①に対応） 15% ③ ケーススタディ分析レポート（学習目標①③に対応） 15% ④ プレゼンテーション評価（学習目標①③に対応） 20% ⑤ 振り返りレポート（学習目標①②③に対応） 40%

授業科目名：情報と社会	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：行木敬
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
授業の概要			
情報技術が社会に与える影響と、社会が情報技術の発展にどのように寄与しているかを学ぶ。この講義を通じて、学生は情報倫理、データプライバシー、サイバーセキュリティ、知的財産権などの重要なトピックを探究し、デジタルディバイドや情報アクセスの平等性など、情報技術が社会にもたらす様々な課題についても考察する。 情報技術が個人の生活、ビジネス、政治、教育など、社会の多様な領域にどのように組み込まれているかを理解し、それに伴う倫理的な判断や政策立案の能力の重要性について学ぶ。また、テクノロジーと社会の相互作用を分析するための理論的枠組みを学び、実際のケーススタディを通じて、これらの理論を適用する方法を学ぶ。 学習目標① 情報をめぐる社会現象を体系的にとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標② それらの理論を使い、情報をめぐる様々な社会現象を分析することができる			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス			
①情報伝達（コミュニケーション）と社会			
②インターネットの登場とコミュニケーションの変化／社会の変化			
③授業計画			
④成績評価と受講上の注意			
第2回：情報とメディア			
①メディアとその分類			
②メディアの歴史（新聞、ラジオ、テレビ）			
③インターネットの登場			
④携帯電話の登場			
第3回：情報の一方向性／双方向性			
①マスメディアとその分類			
②マスメディアと情報の一方向性			
③インターネットと情報の双方向性			

第4回：情報と文脈（1）

- ①コミュニケーションと文脈
- ②文脈を推測する材料
- ③インターネットと文脈の喪失

第5回：情報と文脈（2）

- ①インターネットと文脈の喪失
- ②AI — ディープラーニングと文脈の推測

第6回：情報と文化

- ①文脈の参照源としての文化
- ②異文化間での情報伝達はいかになされるか？

第7回：情報と解釈とコミュニティ（1）

- ①解釈と文化の変化
- ②解釈とコミュニティ
- ③事例 — ムラ社会における情報の解釈と習俗の変化

第8回：情報と解釈とコミュニティ（1）

- ①事例 — ネット上で生じる解釈とn次創作
- ②ネットコミュニティの特異性

第9回：情報と政治（1）

- ①ポップカルチャーとその情報論的位置づけ
- ②ポップカルチャーの政治性 — 国策映画など単純なケース
- ③より複雑なケース — 需要と供給のサイクルの中で自発的に再生産される政治性

第10回：情報と政治（2）

- ①日本のジャーナリズムとその問題点
- ②ジャーナリズムと戦争 — 言論統制をしたのは誰か？
- ③SNSとジャーナリズム

第11回：情報拡散の諸相（1）

- ①流行をめぐる理論
- ②模倣と仲間意識
- ③現代における地域文化を情報拡散の理論からとらえる

第12回：情報拡散の諸相（2）

- ①うわさとその類語の整理
- ②「感情の共有」としてのうわさ
- ③うわさから社会を読む
- ④都市伝説の拡散 — ローカライズとFOF

第13回：情報と経営戦略（1）

①ご当地キャラブームにみる情報の戦略性

②地域活性化についての基礎知識

③キャラクタービジネスと「かわいい」をめぐる図像論

第14回：情報と経営戦略（2）

①せんとかん登場の衝撃

②ご当地キャラのテキスト化

③せんとかんブームと真正性

④逆張り戦略の登場

第15回：情報と経営戦略（3）

①ロイヤリティフリー戦略

②非公認キャラ戦略

③マスツーリズム、ニューツーリズム、そして……

④ネットの時代の物の売り方

テキスト

適宜、教材を配布。

参考書・参考資料等

授業進行に合わせて紹介。

学生に対する評価

- ・授業内小テスト（15回） … 45%（学習目標①②に対応）
- ・期末レポート … 55%（学習目標①②に対応）

授業科目名：ユニバーサルデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陳那森
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
・ ユニバーサルデザインの理解 誰もが利用しやすいデザインの理念と、その社会的意義を理解する。 ・ 光と色の基礎知識の習得 光の性質、色の物理的・心理的側面、そしてそれらの基本的な関係を把握する。 ・ 各媒体における色の表現方法 デジタル媒体と印刷媒体での色の表示方法や調整手法を学び、最適なビジュアル表現を検討できるようになる。 ・ 色彩心理と調和理論の理解 色がもたらす感情効果や、色彩調和の理論を通じて、視覚的な印象を計画的に設計する技術を養う。 ・ 多様な分野への応用力の獲得 ファッション、インテリア、景観デザインなど、各分野における色彩の役割と応用事例を検証し、実践的なビジュアルデザイン力を向上させる。 ・ 創造的思考の促進 理論と実践の両面からデザインアプローチを検討し、独自のアイデアを形にするための思考力を育成する。			
授業の概要			
本科目は、ビジュアルデザインの基本原則と実践を通じて、ユニバーサルデザインの理念を学ぶことを目的とする。講義では、まずユニバーサルデザインの概念や意義について概観し、次に光と色の基本的な関係、デジタルおよび印刷媒体における色の再現方法、さらには色彩心理や色彩調和の理論を詳細に解説する。加えて、ファッション、インテリア、景観デザインなど多様な分野における色彩の応用例を取り上げ、実際の事例を通じて理論の実践的な活用方法を学ぶ。これらの内容を通じて、学生はデザイン理論の理解とともに、実践的なビジュアルデザインのスキルと創造的な発想力を養う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション & ユニバーサルデザインの基本概念 ・ 科目の目的、進行方法の説明・ 「誰もが使いやすい」デザインの意義			
第2回：光と色の基礎理論（1） ・ 光の性質、色の物理的基盤・視覚の仕組み			

第3回：光と色の基礎理論（2） ・色相、明度、彩度の概念・色の三属性の理解
第4回：デジタル媒体における色再現 ・RGB・CMYKの基本・スクリーン表示と印刷物の違い
第5回：印刷媒体における色の管理 ・色校正、プロファイル・印刷工程での色調整方法
第6回：色彩心理の基礎 ・色がもたらす感情効果・文化・環境に依存する色の意味
第7回：色彩調和の理論 ・補色、類似色、トライアド配色・効果的なカラースキームの作成方法
第8回：中間試験 ・前半までの内容の理解度を評価 ＜中間試験（筆記）＞
第9回：デジタルデザイン事例の分析 ・ウェブデザイン、UI/UXにおける色彩活用事例 ＜グループディスカッション含む＞
第10回：印刷物デザイン事例の分析 ・広告、雑誌、パッケージデザインにおける色の役割
第11回：ファッションにおける色彩の応用 ・流行色の選定とその効果・ブランドイメージと色の関係
第12回：インテリア・景観デザインと色彩 ・空間デザインにおける色の使い方・環境デザインとしての配色戦略
第13回：統合プロジェクト（企画立案） ・実際のデザイン課題に基づく企画書作成 ＜グループまたは個人作業＞
第14回：企画発表とピアレビュー ・各グループ／個人の企画発表・フィードバックとディスカッション ＜ポスター発表形式＞
第15回：総復習・質疑応答 & 定期試験準備 ・全体の振り返り・最終試験に向けた補足説明とQ&A ＜定期試験対策セッション＞
定期試験：最終試験 ・科目全体の理解度および応用力の評価 ＜試験日程は別途通知＞
テキスト
授業中に適宜、配布する
参考書・参考資料等
授業中に適宜、配布する
学生に対する評価
毎回の授業最後に提出する小レポート 30%
中間試験 20%
ポスター発表 10%
定期試験 40%

授業科目名：コミュニケーションデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福田美誉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 この授業は、学校社会のみならず、産業、行政、地域など様々な社会の現場で活用することができる効果的なコミュニケーションの考え方とそのスキルを身につけます。アクティブリスニング、論理的対話、エンパシー（共感）、相談援助技法、プレゼンテーション、ファシリテーション、交渉など、社会における様々な状況でのコミュニケーション方法を実践します。また、デジタルを活用しての多様なコミュニケーションについても、1990年代以降の情報化社会の変遷と関連づけながら学びます。さらには、デジタル社会の未来のコミュニケーションについても考えます。			
【到達目標】 ① コミュニケーションデザインの基本的な考え方や活用シーンを知り、実施方法・実施形態の種類と特徴を理解する ② 多様な形態のコミュニケーション・スキルを身につけ実践できるようになる ③ コミュニケーションにおけるデジタルツールの活用方法を理解し、操作できるようになる ④ 自分がめざす業界や職業においてどのように活用できるかを考えることができる ※本科目はディプロマ・ポリシーの（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに該当します。 ※教育は未来社会の質保証に関わる重要な部分です。未来社会を理解しての人材育成に携わるという重大な使命について、自覚できるようになることが大切です。			
授業の概要			
この授業は大きく分けて前半と後半の2部構成になっています。第1、2回でコミュニケーションデザインの概要、理論を知り、第3～7回では対面でのコミュニケーションについて、実践演習を行います。前半振り返りの後、後半は主にデジタルツールを活用してのコミュニケーションを知り、その操作方法と共に実践します。			
授業計画			
第1回：オリエンテーションとコミュニケーションデザイン概論			
第2回：コミュニケーションデザインとは？			
第3回：対面コミュニケーション①アクティブリスニング ―傾聴力とは？―			
第4回：対面コミュニケーション②敬語を用いての論理的対話			
第5回：対面コミュニケーション③共感と相談援助			

第6回：対面コミュニケーション④会議におけるファシリテーション・交渉・合意形成
第7回：対面コミュニケーション⑤提案・プレゼンテーション
第8回：前半振り返り
第9回：デジタルコミュニケーションとは？
第10回：デジタルコミュニケーション①メールとビジネスチャットの活用
第11回：デジタルコミュニケーション②オンラインファシリテーション
第12回：デジタルコミュニケーション③SNSによる双方向コミュニケーション
第13回：トラブルシューティングの疑似体験 ―クレーム対応とシステム障害対応の事例―
第14回：技術革新がもたらす近未来のコミュニケーション
第15回：後半振り返り、総括 ―自分がめざす業界や職業の現場で活かす―
※定期試験はなし、中間課題レポートと最終課題レポートの提出が必要
テキスト
なし
参考書・参考資料等
授業の各回で、適宜、配布する
学生に対する評価
1. 毎回の授業の最後に提出する小レポート 60%
2. 中間課題 第8回修了後の振り返りレポート 20%
3. 最終課題 第15回修了後の振り返りレポート 20%
*学期中、6回以上の無断欠席で、成績評価の資格は喪失

授業科目名：DE&Iと キャリアデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福田美誉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 西欧諸国を中心に、DE&I（多様性、公平性、包摂性）を重要視し、性別、年齢、国籍、価値観など、人と人との多様な違いを受け入れ、尊重し合う社会や組織にしていこうという流れがあり、日本でもその風潮が高まっている。この科目では、ジェンダー、キャリア、情報・社会の働き方に焦点を当て、キャリア形成の理論と情報社会の実情について理解する。情報技術の進歩とともに変化する職業環境において、特に女性にとって有用なスキルが何かを学ぶことで、ジェンダー視点から社会を理解し、多様な視点から情報を捉える能力を身につけるとともに、生涯学習やキャリア形成の理論を理解する。			
【到達目標】 ① ダイバーシティ&インクルージョンの本質と、国内外の社会情勢、企業・行政・教育の動きを理解する ② IT業界を中心にさまざまな職業や業界について情報を入手し、広く深く理解する ③ キャリアデザインとは何かを理解し、自分の価値観や特長を把握するとともに、教員としてのキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てる ④ ①～③の学習を通じて、多様な人と対話し議論するためのスキルと心構えを身につける ※ディプロマ・ポリシーの（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに該当します。 ※教育は未来社会の質保証に関わる重要な部分です。未来社会を理解ししての人材育成に携わるという重大な使命について、自覚できるようになることが大切です。			
授業の概要 この授業は、大きく分けて3部構成になっています。第1～3回は本科目のメインテーマであるダイバーシティとインクルージョンについて理解を深めます。第4～9回は情報社会におけるキャリアデザインと職業への理解を深めます。第10～15回は自分自身のキャリアデザインを行い、設定した目標や計画を仲間に対してプレゼンテーションし、相互理解・意見交換します。			

授業計画

- 第1回：オリエンテーションとダイバーシティとインクルージョンのさわり
 第2回：ダイバーシティとインクルージョンとは？ ～持続可能な社会との関係～
 第3回：アンコンシャス・バイアス「無意識の思い込み」
 第4回：キャリアとは
 第5回：キャリアへの準備 ～視野を広げよう、意識を高めよう～
 第6回：職業研究
 第7回：企業・教育業界研究
 第8回：環境・トレンド分析 ～AI・コロナ禍による変化～
 第9回：ダイバーシティを推進する企業と行政
 第10回：自己理解 ～強みと弱みを知る～
 第11回：職業（特に教育業界）に関する機会と脅威
 第12回：キャリア目標を立てる
 第13回：自己アピールポートフォリオの作成 ①キャリアプランの作成
 第14回：自己アピールポートフォリオの作成 ②プレゼンテーション資料の作成
 第15回：自己アピールと振り返り
 ※定期試験はなし、最終課題レポート提出が必要

テキスト

竹田茂生/藤木清 [編] 夢をかなえるキャリアデザイン くろしお出版

※テキストは第5回～8回、10～13回で使用します

参考書・参考資料等

※社会情勢の変化を踏まえつつ、「ジェンダー」「情報社会」に関する資料を提示します。

学生に対する評価

1. ワークシート等の課題 40%（学習目標①～③に関連する内容）
2. 最終課題（学習目標④に関連する内容）
 - (1) キャリア目標シート・自己アピールビデオ・プレゼンテーション資料 40%
 - (2) 第15回修了後の振り返りレポート 20%

*学期中、6回以上の無断欠席で、成績評価の資格は喪失

授業科目名：情報科学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺卓也
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標				
テクノロジー領域の基礎理論からアルゴリズムとプログラミング、コンピュータシステムとその構成要素、ソフトウェアとハードウェアの理解を深める。				
情報デザインや情報メディアの技術要素を学ぶ。				
データベースやネットワークの管理方法、セキュリティについて学ぶ。				
情報を効率的に管理するための技術と理論を習得する。				
授業の概要				
情報学分野のうち、テクノロジー領域の基礎理論からアルゴリズムとプログラミング、コンピュータシステムとその構成要素、ソフトウェアとハードウェアの理解を深める。また、情報デザインや情報メディアの技術要素を学び、データベースやネットワークの管理方法、セキュリティについても学ぶ。これらの知識を統合し、情報を効率的に管理するための技術と理論を習得する。				
授業計画				
第1回：イントロダクション 情報科学についての概要説明				
第2回：ハードウェア(1) コンピュータの構成				
第3回：ハードウェア(2) 基礎理論				
第4回：ソフトウェア(1) 基本ソフト				
第5回：ソフトウェア(2) アプリケーションソフト				
第6回：ソフトウェア(3) マルチメディア				
第7回：システム構成				
第8回：ネットワーク(1) ネットワークの方式				
第9回：ネットワーク(2) 通信サービス				
第10回：セキュリティ(1) マルウェア				
第11回：セキュリティ(2) 暗号化技術				
第12回：データベース(1) データベース設計				
第13回：データベース(2) データベース処理				
第14回：アルゴリズムとプログラミング				
第15回：まとめと総括試験				

定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 ITパスポート試験のシラバス、解説テキスト
学生に対する評価 1. KPTシート(理解できたこと、できなかったこと、質問などをまとめる) 25% 2. 毎回の授業の確認問題(25点) 3. 総括試験(50点)

授業科目名：データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大西 淳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
プログラミングにおいては、目的を達成するためにどのような手順で処理するかを定めるアルゴリズムと、処理に適したデータの並びを定めるデータ構造が重要となる。代表的な幾つかのアルゴリズムとデータ構造を紹介し、それらを通して問題の捉え方と解法の作成、ならびに効率的なプログラムの開発能力を養う。			
授業の概要			
アルゴリズムは問題解決の手順であり、データ構造は情報の整理と保存の方策である。この授業では、リスト・スタック・木などの典型的なデータ構造を学ぶ。また、ソーティング、再帰法、文字列探索、2分探索など、広く用いられているアルゴリズムについて学ぶ。さらに、これらの知識を用いて、効率的なプログラムを作成する能力を養う。授業で学んだことを実践する「データ構造とアルゴリズム演習」を本講義と並行して履修すること。			
授業計画			
第1回： アルゴリズムとは			
第2回： 繰り返し			
第3回： データ構造			
第4回： 配列			
第5回： 探索1：線形探索・2分探索			
第6回： 探索2：ハッシュ法			
第7回： スタック			
第8回： キュー			
第9回： 再帰的アルゴリズム			
第10回： ソート1：バブルソート・選択法・挿入法			
第11回： ソート2：シェルソート・クイックソート			
第12回： ソート3：マージソート・ヒープソート			
第13回： 文字列探索			
第14回： 線形リスト			
第15回： 木構造と2分木			
定期試験			

テキスト：柴田望洋「新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造」、SBクリエイティブ
ISBN:978-4-8156-0319-9、本講義では全15回で使用する。また「データ構造とアルゴリズム演習」でもこの教科書を使用する。

参考書・参考資料等

渡邊敏正「データ構造と基本アルゴリズム」共立出版

学生に対する評価

授業内で小テストを数回実施し、平常点30%として評価する、定期試験は70%とし、平常点と合算して100%で評価する

授業科目名：情報管理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺卓也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
企業活動と法務、経営戦略、システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査など、情報技術を活用した経営戦略の立案からシステム開発、運用、監査までを学ぶ。			
情報化社会における企業の競争力強化と社会貢献を実現する能力を習得する。			
授業の概要			
情報学分野のうち、ストラテジ領域とマネジメント領域について学ぶ。具体的には企業活動と法務、経営戦略、システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査など、情報技術を活用した経営戦略の立案からシステム開発、運用、監査までを学ぶ。これらの知識を通じて、情報化社会における企業の競争力強化と社会貢献を実現する能力を習得する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション 情報管理論の各テーマの説明			
第2回：企業活動と法務(1) 財務諸表			
第3回：企業活動と法務(2) 知的財産権・関連法規			
第4回：企業活動と法務(3) 業務分析手法			
第5回：経営戦略とシステム戦略(1) 企業の組織			
第6回：経営戦略とシステム戦略(2) 経営戦略			
第7回：経営戦略とシステム戦略(3) 技術戦略・業績評価			
第8回：経営戦略とシステム戦略(4) ビジネスシステム・e-ビジネス			
第9回：経営戦略とシステム戦略(5) 人工知能・IoT			
第10回：経営戦略とシステム戦略(6) 情報システム戦略・ソリューションビジネス			
第11回：マネジメント(1) 企画・要件定義・システム開発			
第12回：マネジメント(2) テスト手法・ソフトウェア開発手法			
第13回：マネジメント(3) プロジェクトマネジメント・工程管理			
第14回：マネジメント(4) ITサービスマネジメント・システム監査			
第15回：まとめと総括試験			
定期試験			

テキスト 使用しない。
参考書・参考資料等 ITパスポート試験のシラバス、解説テキスト
学生に対する評価 1. KPTシート(理解できたこと、できなかったこと、質問などをまとめる) 25% 2. 毎回の授業の確認問題(25点) 3. 総括試験(50点)

授業科目名：システム 設計の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐伯元司
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
情報システムの設計に必要な理論を理解する。			
実践的なスキルを習得する。			
システム設計の基本的な考え方を学ぶ。			
具体的な設計手法を習得する。			
ツールの使い方を学ぶ。			
設計の品質を評価する方法を学ぶ。			
実際のシステム設計を通じて、理論を実践に活かす力を養う。			
授業の概要			
情報システムの設計に必要な理論と実践的なスキルを学ぶ。システム設計の基本的な考え方から、具体的な要求分析法や設計手法、ツールの使い方、設計の品質を評価する方法までを学ぶとともに、実際のシステム設計と実装を通じて、理論を実践に活かす力を養う。			
授業計画			
第1回： 開発プロセス概説とJava復習			
第2回： Eclipseを使ったJavaプログラミング			
第3回： オブジェクト指向の概念と拡張性の高い設計			
第4回： クラス図の作成			
第5回： ツールを使ったクラス図作成とJavaプログラミング			
第6回： 単体テスト			
第7回： オブジェクト指向設計の特徴：継承や抽象クラスなど			
第8回： デザインパターン(1)：構造と振舞			
第9回： デザインパターン(2)：オブジェクトの生成			
第10回：設計の改善：メトリックス			
第11回：設計の改善：リファクタリング			
第12回：要求分析序論とユースケース法			
第13回：要求仕様からのクラス図導出			
第14回：CRC法によるクラス図導出			
第15回：UML序論：シーケンス図と状態遷移図			

テキスト 講義のホームページを通して講義用スライドを提供する
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 各講義中に行う実習(50%)と実習レポート(50%)で評価する

授業科目名： データサイエンスⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 章 志華
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：Pythonを活用したデータサイエンスの基礎を学び、データ収集から可視化・分析に至る一連のプロセスを総合的に理解する。さらに、得られた知見をもとにデータ駆動型の意思決定を行うための土台を築くことを目指す。			
到達目標：			
1. Pythonの基礎：Pythonの文法と主要ライブラリ（Pandas, Matplotlib, seaborn, scikit-learn）を使いこなし、データ操作、可視化、機械学習の基本を実装できるようになる。			
2. データ分析プロセス：データ収集から前処理、可視化、分析、モデル構築までの一連の流れを理解し、実際のデータに適切に分析を適用できるようになる。			
3. 機械学習・統計解析：回帰、分類、クラスタリングなどの基本的な機械学習手法の原理と活用方法を理解し、Pythonで実装できるようになる。			
4. データ駆動型意思決定：分析結果に基づいた考察を行い、ビジネスや研究分野での活用を想定した意思決定プロセスを身につける。			
5. データ倫理：データを扱う上で求められる倫理観とプライバシー保護の重要性を理解し、責任あるデータ利用を実践できるようになる。			
授業の概要			
本授業では、プログラミング言語Pythonを用いて、データサイエンスに必要な一連のプロセス（データの収集・前処理・可視化・分析・モデル構築）を総合的に学習する。具体的には、Pandasによるデータ操作やMatplotlib、seabornを使った可視化、scikit-learnを用いた機械学習の基礎実装を行いながら、統計学や機械学習の理論的背景への理解も深める。また、実際のデータを扱ったプロジェクト演習を通じて、現実の課題に対する分析アプローチとデータ駆動型の意思決定の方法を身につける。さらに、データの取り扱いに必要な倫理やプライバシー保護の観点も学び、責任あるデータ活用を行うための基盤を構築する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：データサイエンスの概要とPythonの基礎			
第2回：データの収集と前処理：Pandasを使ったデータ操作			
第3回：データの可視化：Matplotlibとseabornによるグラフ作成			
第4回：統計分析の基礎：記述統計と推測統計			

第5回：機械学習入門：scikit-learnを用いた回帰分析

第6回：分類アルゴリズム：決定木とランダムフォレスト

第7回：クラスタリング：k-means法とその応用

第8回：時系列データ分析：基本的な手法と予測モデル

第9回：テキストマイニング：自然言語処理の基礎

第10回：実データを用いた分析（1）データ収集から前処理、可視化

第11回：実データを用いた分析（2）分析、モデル構築

第12回：より高度な分析

第13回：最終プロジェクト：実データを用いた分析実践演習

第14回：最終プロジェクト：実データを用いた分析と発表

第15回：データ倫理とプライバシー：責任あるデータ利用

定期試験

テキスト

『Pythonで実践するデータサイエンス』（John P. Mueller著、東京化学同人出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜、配布する

• 評価方法

定期試験：20%； 授業内課題：50%； 最終プロジェクト：30%；

• 評価基準

定期試験：データサイエンスの基礎知識、統計解析、機械学習の理解度を評価します。

授業内課題：授業で習得した知識の応用能力、データ分析の実践能力を評価します。

最終プロジェクト：実データを用いた分析、問題解決能力、プレゼンテーション能力を評価します。

• 備考

- 課題の提出期限の遅延は減点の対象となります。

- 成績評価は、上記の評価方法および評価基準に基づき、総合的に判断します。

• その他

本シラバスの内容は、必要に応じて変更する場合があります。

学生からの質問や相談は、授業時間内またはオフィスアワーに受け付けます。

授業科目名：ネットワークとデータベース	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中寫康二
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標 ネットワーク関連の学び： ① ネットワークシステムの基本的事項について説明できる。 データベース関連の学び： ② データベースの基本概念と設計、管理システムの概要について説明できる。 ③ リレーショナルデータベース、SQLの基本的な使用法を実践できる。 ④ 実際のデータベースを使用して問題を解決する方策を提案できる。 ⑤ 実際のビジネス環境でのデータベースの役割や価値について解説できる。			
授業の概要 ネットワークシステムとデータベースシステムの相互関係とその学術的基盤に焦点を当てる。 ネットワーク部分では、通信プロトコル、データ伝送、ネットワークアーキテクチャ、セキュリティメカニズム、そしてクラウドネットワーキングに関する理論的枠組みと実践的応用を探求する。また、データベースセクションでは、リレーショナルモデルの数学的基礎、データモデリング、クエリ最適化、トランザクション理論、並行性制御、データベースの正規化と非正規化、そして分散データベースシステムの設計原則について学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／ネットワークとデータベースの概観 第2回：ネットワーク基礎：通信プロトコルとデータ伝送 第3回：ネットワークアーキテクチャ：構造と設計の基礎 第4回：ネットワークセキュリティのメカニズム：脅威と対策 第5回：クラウドネットワーキング：仮想化とクラウド環境での設計 第6回：データベース入門：データモデリングとリレーショナルモデルの基礎 第7回：データベース設計：正規化・非正規化とスキーマ設計 第8回：中間試験／SQL基礎：データ定義言語（DDL）とデータ操作言語（DML） 第9回：SQL応用：複雑なクエリと集計・結合の活用 第10回：トランザクション理論と並行性制御：ACID特性の理解 第11回：DB管理システムの概要：バックアップ・リカバリーとセキュリティ 第12回：分散DBとクラウドDB：設計原則とメリット・課題第13回：			

第13回：ビジネス環境でのDB活用：実際の導入事例と設計ポイント

第14回：実践演習：データベースを使った問題解決の提案

第15回：総括と振り返り：ネットワークとDBの相互関係と今後の展望

テキスト

必要に応じて教材プリント等を配付します。

参考書・参考資料等

・『イラスト図解式 この一冊で全部わかるネットワークの基本 第2版』 SBクリエイティブ
2023年

・『SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作』 翔泳社, 2016年

学生に対する評価

レポート①：ネットワークに関するまとめ（学習目標①に対応）10%

中間試験：第7回までに扱った内容の知識テスト（学習目標①②に対応）20%

レポート②：SQL演習の成果を報告（学習目標③に対応）10%

レポート③：事例研究レポート（学習目標④に対応）20%

総括プレゼンテーション：発表とファイル提出（学習目標⑤に対応）40%

授業科目名：情報セキュリティ基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森井昌克
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
情報セキュリティおよびサイバー社会のセキュリティの基礎事項全般について学ぶ。サイバー社会の問題点、脆弱性、およびそれらの課題、さらには解決策の基本について理解する。 1. サイバー社会を構築するうえで基本となる情報通信システム、そしてそのうえで運用される移動体通信システム（携帯電話、スマートフォン）の基本原理を理解する 2. 主にスマートフォンで利用されるアプリやSMSの原理を理解する 3. アプリやSMSの問題点、さらには誹謗中傷、フェイクニュース等の問題点を理解する 4. サイバー攻撃の手法全般を理解する 5. サイバー攻撃の防御法としてのファイヤーウォール、IDS, UTM等について理解する。 6. 情報の機密性・完全性・可用性を担保する暗号の基礎について理解する。 7. サイバー社会の危機管理について理解する。			
授業の概要			
情報セキュリティを必要とするサイバー社会の成り立ちとその問題点を総括的に講義するとともに、その基盤となる情報通信技術、特にインターネットと現在の利用者側の運用主体であるパソコン、スマートフォンの利用について概説する。その上でセキュリティを確保するためのサイバー攻撃やシステム障害等のインシデント対応、およびその技術の基礎について解説する。			
授業計画			
第1回：サイバー社会とは（サイバー社会の現状とともに、その利用方法について概説する） 第2回：インターネットとは（1）（インターネットの仕組みについて概説する） 第3回：インターネットとは（2）（インターネットの技術について概説する） 第4回：インターネットの利用法（webアプリ等、利用法について概説する） 第5回：移動体通信網について（携帯電話やスマートフォンの仕組みについて概説する） 第6回：SMSの利用法について（SMSの利用とそおける問題点について概説する） 第7回：SMSでの誹謗中傷、フェイクニュースについて 第8回：プライバシーを守るために（プライバシーとは何か、その保護について概説する） 第9回：個人認証技術とは（1）（パスワードを主体に概説する） 第10回：個人認証技術とは（2）（バイオメトリック認証、その他について概説する）			

第11回：サイバー攻撃とは（インターネットへの攻撃手法について概説する） 第12回：マルウェアとは（ランサムウェア等、コンピューターウイルスについて概説する） 第13回：サイバー攻撃の防御法（UTM等、防御技術について概説する） 第14回：無線LANセキュリティ（公衆無線LAN等の問題点、その防御について概説する） 第15回：サイバー社会の危機管理（総論として危機管理について概説する） 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 粕淵 卓，森井 昌克，4コマ漫画でさくっとわかるセキュリティの基本，ソシム出版，2017年 YahooNews森井昌克，https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/moriimasakatsu
学生に対する評価 各講義後の小テスト、および適時の課題、そして定期試験の成績で総合的に評価する。

授業科目名：プログラミング演習Ⅰ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：（クラス分け） 南畑 淳史 望月 雅光 河田 慈人
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
Pythonの基本的な文法から始め、変数、制御構造、関数、クラスなどの基本的なプログラミングの概念を学ぶ。			
実際の問題を解決するためのプログラミング技術も身につけ、人工知能や機械学習の基礎についても学ぶ。			
授業の概要			
プログラミング言語Pythonの基本的な文法や操作方法を学ぶ。この科目では、Pythonの基本的な文法から始め、変数、制御構造、関数、クラスなどの基本的なプログラミングの概念を学ぶ。また、実際の問題を解決するためのプログラミング技術も身につけ、人工知能や機械学習の基礎についても学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーションおよびPythonの概要と開発環境の構築方法			
第2回：四則演算・変数・入出力方法について			
第3回：条件式と分岐、反復処理について			
第4回：条件式と分岐、反復処理の演習			
第5回：変数、条件式と分岐、反復処理の演習および確認テスト			
第6回：リスト			
第7回：リストの演習			
第8回：変数、条件式と分岐、反復処理、リストの演習と確認テスト			
第9回：関数			
第10回：関数の演習			
第11回：標準ライブラリとその演習			
第12回：関数とライブラリに関する演習と小テスト			
第13回：AI入門：画像生成AI			
第14回：クラス、クラスに関する演習			
第15回：今までの内容の復習および演習と確認テスト			

テキスト

国本大悟，須藤秋良，株式会社フレアリンク（監修），”スッキリわかるPython入門”，インプレス

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜、紹介する。

学生に対する評価

各回の演習・確認問題での評価： 30%

各回の宿題での評価： 20%

確認テスト1回目： 10%

確認テスト2回目： 10%

確認テスト3回目： 15%

確認テスト4回目： 15%

授業科目名：プログラミング演習Ⅱ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：南畑 淳史 望月 雅光 河田 慈人
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
Pythonを用いてデータ分析を行う。 データの収集、整理、分析、可視化など、データ分析の全過程を学ぶ。			
授業の概要			
Pythonを用いてデータ分析を行う。データの収集、整理、分析、可視化など、データ分析の全過程を学ぶ。また、実際のデータセットを用いて、Pythonでのデータ分析手法を実践的に学ぶ。この科目を通じて、データ分析の基本的なスキルとPythonの操作方法を習得する。			
授業計画			
第1回：受講ガイダンス・データ分析の基礎			
第2回：データ分析のためのプログラミング環境の構築・Pythonの文法の復習			
第3回：Pythonプログラミングとデータ分析基礎（1）：Pythonのデータ型、制御構文（if文、for文など）の復習			
第4回：Pythonプログラミングとデータ分析基礎（2）：関数、ライブラリの基本操作			
第5回：表形式のデータの分析の基礎（1）：表データの基本的なデータ操作、記述統計量などでデータ全体を把握する			
第6回：表形式のデータの分析の基礎（2）：データの集約、変数間の相関分析			
第7回：データの可視化の基本（1）：Matplotlibを用いた基本的なグラフ（折れ線、棒グラフ、ヒストグラム）の作成			
第8回：データの可視化の基本（2）：Seabornを用いた高度な可視化（散布図行列、カテゴリ変数の可視化など）			
第9回：オープンデータを用いた分析練習（1）：オープンデータの探し方と取得、データの前処理			
第10回：オープンデータを用いた分析練習（2）：取得したデータを用いた具体的な分析と可視化の実践			
第11回：時系列データ分析の基礎演習			
第12回：クラスタリングの基礎演習			

第13回：SSDSEを用いた総合演習（1）：PPDACサイクルの説明・計画の立案

第14回：SSDSEを用いた総合演習（2）：分析の実施

第15回：SSDSEを用いた総合演習（3）：最終発表とフィードバック、振り返り

テキスト

笹嶋 宗彦, ” データサイエンス入門”, 朝倉書店

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜、紹介する。

学生に対する評価

各回の課題・宿題(30%)

SSDSEを用いた総合演習のレポート：40%

リフレクションシートおよびアピールシート(30%)

授業科目名：クラウド 技術基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陳那森
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
- クラウドコンピューティングの基本概念の理解 クラウドコンピューティングとは何か、その歴史や背景、基本的な概念を理解する。 - クラウドモデルの種類と特性の理解 Microsoft Azureを例に、IaaS、PaaS、SaaS等各クラウドモデルの特徴や利用シーンを学ぶ。 - クラウドサービスの利用方法の理解 実際のクラウドサービスの操作方法や導入の流れ、活用事例を通して利用方法を習得する。 - セキュリティ・プライバシー・コンプライアンス・信頼性の理解 クラウド利用時に必要なセキュリティ対策、プライバシー保護、コンプライアンス遵守、システムの信頼性確保のポイントを学ぶ。 - コスト概念・ライフサイクル・SLAの理解 クラウドサービスの料金体系、ライフサイクル管理、およびサービスレベルアグリーメント（SLA）の重要性について理解を深める。			
授業の概要			
クラウドコンピューティングの基本的な概念とサービスを学ぶ。Microsoft Azureを例に、クラウドモデルの種類や特性、クラウドサービスの利用方法、セキュリティやプライバシー、コンプライアンスと信頼性について理解を深めます。また、コストの概念やライフサイクル、サービスレベルアグリーメントについても学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション & クラウドコンピューティング概論・授業の目的、進め方の説明 ・クラウドコンピューティングの定義・背景			
第2回：クラウドの歴史と発展・従来のITインフラとの比較・クラウド普及の要因と市場動向			
第3回：クラウドの基本概念：IaaS、PaaS、SaaS・各モデルの特徴と利用事例			
第4回：Microsoft Azureの概要・Azureの特徴、サービスラインナップの紹介			
第5回：クラウドモデルの詳細解説・IaaS、PaaS、SaaSの比較と選定基準			
第6回：仮想化技術とクラウド基盤・仮想化の基本原理とクラウド環境での活用			
第7回：Azureを用いたクラウドサービス利用方法（1）・アカウント作成、基本操作の実習			
第8回：Azureを用いたクラウドサービス利用方法（2）・主要サービス（Compute、Storage、Networking）の利用例			
第9回：クラウドセキュリティの基本・セキュリティ対策の概念、リスク管理			
第10回：Azureにおけるセキュリティ・プライバシー対策・Azure Security Center、コンプライアンス機能の紹介			
第11回：クラウドサービスの信頼性と可用性・冗長構成、バックアップ、障害対応			

第12回：クラウドコスト管理・料金体系、コスト最適化手法

第13回：ライフサイクル管理とSLA・システムの運用・保守、SLAの読み方と運用事例

第14回：事例研究：クラウド導入の成功例と失敗例・実際のケーススタディの検討

第15回：総復習と質疑応答・全体の振り返り、学生からの質問対応

定期試験：期末試験・授業全体の理解度を評価

テキスト

『イラスト図解式 この一冊で全部わかるクラウドの基本 第2版』（林 雅之著、SBクリエイティブ出版）

参考書・参考資料等

Microsoft Azure 公式ドキュメントおよびオンラインリソース

授業中に適宜、指示・配布

学生に対する評価

毎回の授業最後に提出する小レポート 40%

中間試験 20%

定期試験 40%

授業科目名：プログラミングC（Java応用）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陳 那森
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
○授業のテーマ			
Javaプログラミング言語を通じて、基本文法から高度なプログラミング技術を体系的に学び、実際のプログラム開発を通じて実践力を養う。			
○到達目標			
(1) Javaの基本文法を理解し、基礎的なプログラムを作成できる。			
(2) オブジェクト指向プログラミングの基本概念（カプセル化、継承、ポリモーフィズム）を実装できる。			
(3) 例外処理やファイル操作、マルチスレッドの機能を使い、実用的なプログラムを作成できる。			
(4) 実際の開発プロセスを学び、チームプロジェクトを通じて協働スキルとソフトウェア設計の実践力を向上させる。			
(5) プログラムのデバッグやテストを適切に行い、高品質なソフトウェアを開発する能力を身につける。			
授業の概要			
この授業では、Java言語の基本的な文法からオブジェクト指向プログラミングの概念と応用までを学ぶ。具体的には、以下の内容を含む。			
・ Javaの基本文法（変数、データ型、制御構造、ループ構造）			
・ メソッドやクラスの作成			
・ オブジェクト指向の基本概念（カプセル化、継承、ポリモーフィズム）			
・ 例外処理の基礎と応用			
・ ファイル操作（入出力ストリームを含む）			
・ マルチスレッドによる並列処理			
・ GUIプログラミングの基礎			
・ ソフトウェア開発の実践的なプロジェクト演習			
これらを通じて、プログラミングスキルを理論的かつ実践的に向上させることを目指す。			
授業計画			
第1回： 授業ガイダンス			
授業の進め方と Java 開発環境（Eclipse や Visual Studio Code）のインストールと			

設定	
第2回:	Java の基本文法 1 変数、データ型、演算子の基礎
第3回:	Java の基本文法 2 制御構造 (if 文、switch 文) とループ構造 (for 文、while 文)
第4回:	メソッドとクラスの基礎 メソッドの定義と呼び出し、クラスとオブジェクトの概念
第5回:	オブジェクト指向プログラミング 1 カプセル化とコンストラクタの利用
第6回:	オブジェクト指向プログラミング 2 継承とポリモーフィズム、抽象クラスとインターフェース
第7回:	例外処理の基礎 try-catch 文と例外のスロー、独自例外の作成
第8回:	ファイル操作 1 テキストファイルの読み書き、入出力ストリーム
第9回:	ファイル操作 2 バイナリファイル操作とシリアライズ
第10回:	マルチスレッドプログラミング スレッドの作成と管理、同期処理
第11回:	GUI プログラミングの基礎 Swing を用いた簡単なウィンドウアプリケーションの作成
第12回:	ソフトウェア開発プロジェクト準備 要件定義と仕様設計
第13回:	チームプロジェクト 1 設計書の作成と実装開始
第14回:	チームプロジェクト 2 実装の完了とテストの実施
第15回:	チームプロジェクト 3 完成したプログラムのプレゼンテーションとレビュー
定期試験：筆記試験（理解度評価）および実技試験（プログラム作成）	
テキスト	
『独習Java』（山田祥寛著、翔泳社出版）	
参考書・参考資料等	
授業中に適宜、配布する	
学生に対する評価	
毎回の授業最後に提出する小レポート 40%	
中間試験 20%	
定期試験 40%	

授業科目名：情報科指 導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 若杉祥太、阪東哲也
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
高等学校の情報科教員として求められる学識や資質を身につけ、高めることをめざして、情報科における「情報Ⅰ」の授業の方法と実践について学ぶ。教員の中心業務である教科指導に関して、教育実習を念頭に、以下の基礎・基本を培うことを到達目標とする。			
(1) 学校教育関連諸法令及び高等学校学習指導要領等に基づき、高等学校情報科の教科指導に関する基礎知識を学修・研究する。			
(2) 高等学校情報科の授業実践に向けて、事例研究・模擬授業、情報機器及び教材の効果的な活用法等を通して、多様な指導方法の基礎を身につける。			
(3) 高校生の発達段階に応じた教科指導の精選や教科外の関連学習指導、小中高の関連に加えて、生徒の生活・進路指導や教育相談等、教員の職務に関する基本的事項についても学修することとする。			
授業の概要			
本講義は、高等学校共通教科「情報」の理解を深めることを目的とする。情報化社会における情報教育の重要性を踏まえ、2022年度に実施された新教育課程に基づき、「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」の必修化に伴う内容の理解と、それらを効果的に指導するためのスキル習得に重点を置く。授業では、指導計画の作成や実習教材の準備など、実際の授業運営に必要な作業を体験し、共通教科「情報」の指導者としての資質を養う。本講義を通して、 学習指導要領に沿った「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」の指導ポイントを理解し、指導計画と指導案の作成ができるようになる。また、教材の準備から授業実施に至るまでのプロセスを学び、模擬授業を通じて実践的な指導力を身につける。			
各回のテーマに沿って主たる担当者別にオムニバス形式で実施する。担当する各回については情報科指導法Ⅱと併せて調整する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、普通教科情報のねらいと課題（担当：若林） この教科の内容と概要について説明し、社会環境の変化に伴う普通教科情報、「情報Ⅰ」のねらいとその課題について議論する。			
第2回：学習指導要領のねらいと内容について（担当：若林） 情報教育の縦の連携と横の連携、高等学校学習指導要領の教育目標と課題について解説する。			

第3回：「情報社会の問題解決」について（担当：若林）

情報やメディアの特性を踏まえ、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を通して、問題を発見・解決する方法を理解するとともに、情報技術が人や社会に果たす役割と影響、情報モラルなどについて理解し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し、望ましい情報社会の構築に寄与する力を養うための指導案と教材の開発。

第4回：「コミュニケーションと情報デザイン」について（担当：若林）

目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するとともに、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し、コンテンツを表現し、評価し改善する力を養うための指導案と教材の開発。

第5回：「コンピュータとプログラミング」について（担当：阪東）

問題解決にコンピュータや外部装置を活用する活動を通して情報の科学的な見方・考え方を働かせて、コンピュータの仕組みとコンピュータでの内部表現、計算に関する限界などを理解し、アルゴリズムを表現しプログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークの機能を使う方法や技能を身に付けるようにし、モデル化やシミュレーションなどの目的に応じてコンピュータの能力を引き出す力を養うための指導案と教材の開発。

第6回：「情報通信ネットワークとデータの活用」について（担当：阪東）

情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用する活動を通して情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解するとともに、データを蓄積、管理、提供する方法、データを収集、整理、分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付けるようにし、目的に応じて情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用する力やデータを問題の発見・解決に活用する力を養うための指導案と教材の開発。

第7回：教育実務指導（担当：阪東）

現職教員を担当している高等学校と連携を取り、現職教員との意見交換や現場の実際の状況を共有を行う。

第8回：学習指導案の作成と模擬授業の展開と実技小テスト・座学小テストの作成及び採点の検討情報Ⅰ ①情報社会の問題解決、②コミュニケーションと情報デザイン、③コンピュータとプログラミング、④情報通信ネットワークとデータの活用以上の分野より1つの分野を重複しないように選択し、学習指導案、板書計画（プレゼンテーション計画）、教材開発を行い、同時に実技小テスト・座学小テスト（各30点満点）を作成し、採点基準を検討する。（担当：阪東）

第9回～第11回：模擬授業、小テストの実践（全員）（担当：若林・阪東）

各回あたり、模擬授業（20分）講評（5分）小テスト（5分）を3回繰り返す。

注：小テストは出題者が持ち帰り、自宅で採点。第12回の講義の最初に返却する。

第12回：アクティブ・ラーニングの視点にたった授業改善

様々なグループワークと情報教育への応用

第13回：小テストの分析と学習指導案の改善（担当：若林・阪東）

小テストの分析と授業の改善

第14回：小テストの分析と学習指導案の改善（担当：若林・阪東）

模擬授業の講評、小テストの分析をもとに学習指導案を改善する。改善された学習指導案での模擬授業の実施

第15回：今後の情報教育の展望と課題（担当：若林・阪東）

小・中学校での学習内容・程度を踏まえた学習計画、ならびに生徒の生活・進路指導や教育相談等、教員の職務に関する基本的事項についても学修する。

授業アンケートの実施。

テキスト

自作教材（講義の冒頭にWebページで紹介する）

高校情報Ⅰのいずれかの教科書

参考書・参考資料等

- ・「文部科学省検定済教科書 104 数研 情Ⅰ／708」
- ・高等学校学習指導要領 情報科関係資料

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_01831.html

- ・高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm

- ・高校情報Ⅰ 集中講義 一問一答問題集
- ・高校情報 厳選問題集
- ・高等学校 実践情報Ⅰ
- ・高等学校 実践情報Ⅰ サブノート
- ・教科書準拠 学習指導書

学生に対する評価

最終試験は実施せず、Webでの確認テスト、学習指導案、作成した小テスト、模擬授業などで評価する。

模擬授業・講評・参加態度（40%）、学習指導案・作成した小テスト・採点基準・採点結果（40%）、Webでの確認テスト（20%）

授業科目名：情報科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：若杉祥太、阪東哲也
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
高等学校の情報科教員として求められる学識や資質を身につけ、高めることをめざして、情報科における「情報Ⅱ」の授業の方法と実践について学ぶ。教員の中心業務である教科指導に関して、教育実習を念頭に、以下の基礎・基本を培うことを到達目標とする。 (1) 学校教育関連諸法令及び高等学校学習指導要領等に基づき、高等学校情報科の教科指導に関する基礎知識を学修・研究する。 (2) 高等学校情報科の授業実践に向けて、事例研究・模擬授業、情報機器及び教材の効果的な活用法等を通して、多様な指導方法の基礎を身につける。 (3) 高校生の発達段階に応じた教科指導の精選や教科外の関連学習指導、小中高及び「情報Ⅰ・Ⅱ」の関連に加えて、生徒の生活・進路指導や教育相談等、教員の職務に関する基本的事項についても学修することとする。			
授業の概要			
情報科指導法Ⅰの内容を踏まえ、指導法や指導案の作成に焦点を当てる。学生は各単元の学習内容の組み立てや生徒の理解度を考慮し、発表と議論を通じて理解を深める。情報学部の学生として、情報と社会の関連性を指導できる能力を目指す。ICT活用も重要なテーマとする。本講義を通じて「情報科」教員として必要な知識と技量の基盤を築くこと。学習指導要領に基づいた知識習得と共に、教科内容を創造的に構築する実践力を養う。 学習指導要領の内容や著作権法の解説、プログラミング、学力評価方法などの講義後、学生が自ら資料を集め、考え、まとめ、発表し、議論する機会を設け、教材選択や作成能力を身に付ける。 各回のテーマに沿って主たる担当者別にオムニバス形式で実施する。また、情報科指導法Ⅰで学んだ内容の実践を中心とするため、担当する各回については情報科指導法Ⅰの担当回数に応じて調整する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、学習指導要領のねらいと内容について（担当：若林） この科目の内容と概要について説明し、社会環境の変化に伴う普通教科情報、情報Ⅰ、情報Ⅱのねらいとその課題について議論する。また、情報教育の縦の連携と横の連携、高等学校学習指導要領の教育目標と課題について解説する。			

第2回：「情報社会の進展と情報技術」について（担当：若林）

情報技術の発展の歴史を踏まえて、情報セキュリティ及び情報に関する法規・制度の変化を含めた情報社会の進展、情報技術の発展や情報社会の進展によるコミュニケーションの多様化や人の知的活動に与える影響を理解するようにし、コンテンツの創造と活用、情報システムの創造やデータ活用の意義について考える力を養うための指導案と教材の開発。

第3回：「コミュニケーションとコンテンツ」について（担当：阪東）

コミュニケーションを適切に行うために、目的や状況に応じてコンテンツを制作し、発信する学習活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせ、多様なメディアを組み合わせるコンテンツを制作する方法やコンテンツを発信する方法を理解し、必要な技能を身に付けるとともに、情報デザインに配慮してコンテンツを制作し評価し改善する力を養うための指導案と教材の開発。

第4回：「情報とデータサイエンス」について（担当：若林）

情報の科学的な見方・考え方を働かせて、問題を明確にし、分析方針を立て、社会の様々なデータ、情報システムや情報通信ネットワークに接続された情報機器により生成されているデータについて、整理、整形、分析などを行う。また、その結果を考察する学習活動を通して、社会や身近な生活の中でデータサイエンスに関する多様な知識や技術を用いて、人工知能による画像認識、翻訳など、機械学習を活用した様々な製品やサービスが開発されたり、新たな知見が生み出されたりしていることを理解するようにする。更に、不確実な事象を予測するなどの問題発見・解決を行うために、データの収集、整理、整形、モデル化、可視化、分析、評価、実行、効果検証などの各過程における方法を理解し、必要な技能を身に付け、データに基づいて科学的に考えることにより問題解決に取り組む力を養う。こうした活動を通して、データを適切に扱うことによって情報社会に主体的に参画しその発展に寄与しようとする態度を養うための指導案と教材の開発。

第5回：「情報システムとプログラミング」について（担当：阪東）

実際に稼働している情報システムを調査する活動や情報システムを設計し制作する活動を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報システムの仕組み、情報セキュリティを確保する方法、情報システムを設計しプログラミングする方法を理解し、必要な技能を身に付けるようにするとともに、情報システムの制作によって課題を解決したり新たな価値を創造したりする力を養うための指導案と教材の開発。

第6回：「情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究」について（担当：若林）

教科の目標に沿って、地域や学校の実態及び生徒の状況に応じて情報と情報技術を活用して問題発見・解決の探究を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能の深化・総合化、思考力、判断力、表現力等の向上を図る。また、このような活動を通して情報社会における問題の発見・解決に情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、新たな価値を創造しようとする態度、情報社会に参画しその発展に寄与しようとする態度を養うための指導案と教材の開発。

第7回：教育実務指導（担当：若林）

現職教員を担当している高等学校と連携を取り、現職教員との意見交換や現場の実際の状況を共有を行う。

第8回：学習指導案の作成と模擬授業の展開と実技小テスト・座学小テストの作成及び採点の検討情報Ⅱ ①情報社会の進展と情報技術、②コミュニケーションとコンテンツ、③情報とデータサイエンス、④情報システムとプログラミング、⑤情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究

以上の分野より1つの分野を重複しないように選択し、学習指導案、板書計画（プレゼンテーション計画）、教材開発を行い、同時に実技小テスト・座学小テスト（各30点満点）を作成し、採点基準を検討する。（担当：阪東）

第9回～第13回：模擬授業、小テストの実践（全員）（担当：若林・阪東）

各回あたり、模擬授業（20分）講評（10分）小テスト（10分）を2回繰り返す。

注：小テストは出題者が持ち帰り、自宅で採点。次回の講義の最初に返却（10分）する。

第14回：小テストの分析と学習指導案の改善（担当：若林・阪東）

小テストの分析と授業の改善

模擬授業の講評、小テストの分析をもとに学習指導案を改善する。

改善された授業案での模擬授業

第15回：今後の情報教育の展望と課題（担当：若林・阪東）

教科外の関連学習指導という観点から、課題の追及や解決に情報手段を活用する指導方法を学修し、科学的理解と思考を育む指導案について学修する。

授業アンケートの実施。

テキスト

自作教材（講義の冒頭にWebページで紹介する）

高校情報Ⅱのいずれかの教科書

参考書・参考資料等

- ・「文部科学省検定済教科書 104 数研 情Ⅰ／708」
- ・高等学校学習指導要領 情報科関係資料

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_01831.html

- ・高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm

- ・高校情報Ⅰ 集中講義 一問一答問題集
- ・高校情報 厳選問題集
- ・高等学校 実践情報Ⅰ
- ・高等学校 実践情報Ⅰ サブノート
- ・教科書準拠 学習指導書

学生に対する評価

最終試験は実施せず、Webでの確認テスト、学習指導案、作成した小テスト、模擬授業などで

評価する。

模擬授業・講評・参加態度（40％），学習指導案・作成した小テスト・採点基準・採点結果（40％）、Webでの確認テスト(20%)

授業科目名：自然と災害	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森永速男
			担当形態： 単独
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）のうち、2. 社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4. 問題発見解決力、6. 専門的知識技術の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ① 地球という生命のいる天体について理解する ② 地球で起こる自然現象のメカニズムについて理解する ③ 自然現象による恩恵と災害の多様性について理解する ④ 恩恵と災害がもたらす影響について多角的に理解し、対応できる ⑤ 自然災害による被災者・被害者への適切な支援ができる ⑥ 自然災害から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑦ 防災、減災の知識を持ち、人に説明できる			
授業の概要			
地球で起こる自然現象の中には生物や人類に恩恵をもたらすものもあれば、突発的で破壊的な災害をもたらすものもある。恩恵と災害をもたらす自然現象の様相やそのメカニズムを理解することは、この天体で持続的に生きていくうえで極めて重要である。この授業の目的は、自然現象からの恩恵について理解し、それらをより正しく享受するためにどうあるべきかを考察し、また災害について正しく理解し、どうすれば災害による被害を低減できるかを考える。さらに、災害による、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災直後から中長期までの影響を多角的に捉え、安全を確立するための知恵と苦難を克服し生きる力を持つ人になることを目指す。 概要は以下のようなものである。地球そのものとそこで起こる自然現象とそのメカニズム、種々の恩恵と災害の知識について学び、実際に身の回りではどのようなことが起こりうるのかシミュレーションすることで、生きる力を身に着ける。また、防災、減災について学び、自助力の向上を目指す。			
授業計画			
第1回：太陽系と地球という天体			
第2回：プレートテクトニクスの基本概念と地球内部構造の理解			
第3回：プレート境界で起こる地震・火山活動の具体例とそのメカニズム			

- 第4回：六甲山の形成と兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）
- 第5回：東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）と近年の震災
- 第6回：火山からの恩恵と災害（火砕流災害）
- 第7回：生命を守る地球磁場とオーロラの発生
- 第8回：生物が語る地球表層の環境変化
- 第9回：降雨のメカニズム、台風と豪雨災害
- 第10回：阪神大水害 - 六甲山系で起こった過去の大水害
- 第11回：地球温暖化と寒冷化
- 第12回：地球の歴史と資源
- 第13回：原子力発電所事故と放射線の理解
- 第14回：災害を乗り越えるための自助・共助・公助
- 第15回：ボランティアの勧め

テキスト

森永速男、片尾浩、山本鋼志著；災害多発時代の今だからこそ地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム - （増補改訂第2版）、ふくろう出版。

参考書・参考資料等

齋藤富雄他編著；映画に学ぶ危機管理、晃洋書房。

学生に対する評価

中間レポート 50%

最終レポート 50%

授業科目名：地域防災 減災論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村田昌彦
			担当形態： 単独
科 目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等		大学が独自に設定する科目	
授業のテーマ及び到達目標			
将来各方面で活躍するなかで、地域や組織における防災リーダーとして安全・安心をけん引していける人材を育成することを目標とする。 さらに、履修者には、全国的に認知されている「防災士」の資格試験の受験機会を提供し、履修者全員が「防災士」の資格取得を目指す			
授業の概要			
本授業では、今後ますます頻発し巨大化する各種災害をたくましく生き抜くために必要となる災害に対する基礎的な知識、災害への備え、災害発生時の対応などについて体系的に学習する。 。			
授業計画			
第1回：ハザードと災害(防災と減災)			
第2回：行政対応と災害法制度 <地域防災計画、災害対策基本法、災害救助法>			
第3回：災害発生の歴史と仕組みと被害 <台風、風水害、強風・竜巻、土砂災害>			
第4回：災害発生の歴史と仕組みと被害<地盤災害等：地震・津波>			
第5回：災害発生の歴史と仕組みと被害<火山・火災>			
第6回：ライフラインの被害と復旧<ライフライン・交通インフラ>			
第7回：防災情報 <予警報、緊急地震速報、被害・避難者情報>			
第8回：企業・都市における防災総論 <都市経営と災害、BCP>			
第9回：災害医療・看護 <応急救急・救命、トリアージ、避難所と仮設住宅>			
第10回：企業防災の実践とCSR			
<企業活動における防災・危機管理、災害発生時の社会的責任等>			
第11回：被災者の心理<避難と避難行動、災害と流言・風評>			
第12回：防災まちづくり <ハザードマップ・地域の復旧と復興>			
第13回：自助・共助・公助 <耐震診断と補強、身近でできる防災対策>			
第14回：防災訓練の実践・避難所運営・危機管理			
<防災訓練・図上訓練、避難所運営>			
第15回：期末総括テストと防災士試験対策			
全体の振り返りと防災士試験へ向けた説明			

第1回～第15回までの間に、通常の講義の他に普通救命講座を個別に3時間程度実施 定期試験：履修者のうち受験資格が確認できた者は全員（原則）、日本防災士機構による防災士試験を受験
テキスト 防災士教本、作成資料
参考書・参考資料等 防災リテラシー（森北出版）
学生に対する評価 各授業の予習・復習、防災士試験対策練習問題などのWebClassの取り組み：50% 総括試験：40% 防災士試験の合否：10% 〈防災士試験受験は、WebClassの練習問題等を行い、総括試験70%程度以上の成績を有する者に、原則受験資格を与える予定〉

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：出嶋陽介
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用に関連している。			
具体的な学習目標は、以下のとおりである。			
①権利や自由がなぜ必要なのかを説明できるようになる。			
②憲法規範に従って、問題を解決できる思考ができるようになる。			
③人権感覚を身に付け、法的に解決できるようになる。			
授業の概要			
本科目の目的は、国家の基礎法である日本国憲法を通じて、人権感覚と憲法が目指すところを修得することにある。			
憲法の成立経緯は講義で詳細に話す予定であるが、我々の自由が確保され、また権力の濫用を封じるための歯止めとなっている非常に重要な国法である。それゆえに、憲法の理解なくして、自由や人権を語るわけには行かないのである。			
加えて、これからの時代は、豊かな人権感覚を備えた人材が求められている。それは、政治家や公務員だけに限られず、一般市民にも必要な教養なのである。			
また、教職課程の科目でもあるため、教員を目指す学生は憲法が保障する自由や権利とは一体何かを十分に学習することは、将来役に立つであろう。			
このようなことから、講義前チェックテスト（講義前演習）、講義、アフターフォローとしての講義前チェックテストの解説の構成で進行する。			
授業計画			
第1回：			
（講義）講義の進め方と憲法の概念についての説明を行なう。第1回目は履修者確定の時期ではないので、憲法総論として日常生活と憲法との関係について講義するつもりである。			
（復習）講義ノートの整理			
第2回：			
（講義）憲法史			
憲法が成立する背景として存在する近代人権宣言について説明する。ここでは、憲法の成立由来ならびに明治憲法及び日本国憲法についての説明をし、憲法の基礎的性格を明らかにする。テキスト1～7			

ページ該当

(講義前演習) 憲法の基本知識に関する確認テスト

(予習)

テキスト1-7ページを読んで、憲法の基本原理、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違について確認する。

第3回：

(講義) 人権享有主体性 (外国人の人権保障)

基本的人権総論と題して、外国人に対する人権保障について説明する。とりわけ、日本人と同等同質の生活を送る定住外国人に、憲法はどこまで人権を保障するのか解説する。テキスト12～13ページ該当

(講義前演習) 人権享有主体に関する確認テスト

(予習)

テキスト12-13ページを読んで、外国人の人権保障について、憲法がどのような態度をとっているのかを確認する。

(復習)

講義ノートの整理

第4回：

(講義) 幸福追求権 (新しい人権)

人権の一般規定である13条では、幸福追求権が保障されている。そこで、近年新しい人権として主張されるようになった、特に、新しい人権や自己決定権の意義と限界についての説明をしていくことにする。テキスト22,24～29ページ該当

(講義前演習) 新しい人権に関する確認テスト

(予習)

テキスト22-29ページを読んで、特に幸福追求権と自己決定権との関係を理解しておく。

(復習)

講義ノートの整理、小テストに向けた復習

第5回：

(講義) 平等権

近代人権宣言は、自由と平等を御旗としているが、そのうちの平等権について説明する。その中で、差別の問題と平等の意義及び平等権が争われた事例についての講義する。テキスト32～33,36-37ページ該当

(講義前演習) 平等権に関する確認テスト

※ WebClassを利用した小テスト (第1回目) を実施するので、パソコンを持参すること。

(予習)

テキスト32-37ページを読んで、特に差別と平等権との関係を理解しておく。

(復習)

講義ノートの整理

第6回:

(講義) 思想良心の自由、信教の自由

憲法は精神的自由を保障し、思想良心の自由、信教の自由、表現の自由を保障する。ここでは、前二者について講義をし、なぜ個人の内心の自由を保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト38～39,42～45ページ該当

(講義前演習) 精神的自由、特に思想信条の自由と信教の自由についての確認テスト

(予習)

テキスト38-45ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。

(復習)

講義ノートの整理

第7回:

(講義) 表現の自由

前回に引き続き、精神的自由の中でもコアな人権である表現の自由について講義をし、なぜ表現の自由を手厚く保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト46～49,52-55ページ該当

(講義前演習) 表現の自由についての確認テスト

(予習)

テキスト46-49,52-55ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。

(復習)

講義ノートの整理

第8回:

(講義) 人身の自由①

人身の自由とは、かつて国家権力が人民を不当に処罰したところから、刑罰権の濫用がなされないよう、憲法上のルールとして保障されたものである。ここでは、奴隷的拘束の禁止、適正手続の保障、令状主義を説明する。テキスト64～71ページ該当

(講義前演習) 人身の自由 (予習該当範囲) に関する確認テスト

(予習)

テキスト64-71ページを読んで、適正手続の保障、令状主義について理解する。

(復習)

講義ノートの整理

第9回:

（講義）人身の自由②

前週に引き続き、公平の裁判所による迅速な裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権、残虐な刑罰の禁止を講義する。テキスト64～67ページ該当

（講義前演習）人身の自由（予習該当部分）に関する確認テスト

（予習）

テキスト64-71ページを読んで、公平な裁判所の迅速な裁判を受ける権利、証人審問権、証人喚問権、弁護人依頼権、残虐刑の禁止について理解する。

（復習）

講義ノートの整理、小テストに向けた復習

第10回：

（講義）生存権

弱者救済の人権である生存権を講義する。生存権は近年の社会情勢から注目されており、国家がいかに弱者を救済するべきか、議論が立たなされている。この点から、生存権が必要とされる意義や限界、生存権の将来について一緒に考えていきたい。

（講義前演習）生存権について確認テスト

※ WebClassを利用した小テスト（第2回目）を実施するので、パソコンを持参すること。

（予習）

テキスト76-77ページを読んで、生存権が必要とされた背景について理解する。

（復習）

講義ノートの整理

第11回：

（講義）国会①

憲法は統治機構に関する規定も置いているが、その中でも第11回目は国会について講義をする。特に、民主政治の基盤となる国会、そしてそもそも民主主義や民主政治とは何かを考えていきたい。その他にも、衆議院の優越、国会議員の特権などにも目を向けていくことにする。テキスト98～109ページ該当

（講義前演習）国会、内閣に関する確認テスト

（予習）

テキスト90-91,98-109ページを読んで、国会の性格、国会の権限について理解する。

（復習）

講義ノートの整理

第12回：

（講義）国会②、内閣

前回に引き続き、国会の権能や議院内閣制、内閣について講義をする。そして、行政権を担当する内閣の権限や機能を説明をする。テキスト98～109ページ該当

（講義前演習）国会、内閣に関する確認テスト

（予習）

テキスト90-91,98-109ページを読んで、議院内閣制の仕組み、内閣の権限について理解する。

（復習）

講義ノートの整理

第13回：

（講義）裁判所①

国会、内閣に次いで、統治機構の三本柱の一角を占める裁判所について講義をする。裁判所は基本的人権の砦として、国民の権利や自由を守る役割を果たしている。また、中立的な裁判を実現するために、司法権の独立という仕組みも導入されている。このような点から、裁判所が憲法を頂点とした法の支配を実現するために果たす役割、第13回では、司法権という概念、三審制（司法制度）、司法権の独立を説明をする。テキスト110～117ページ該当

（講義前演習）裁判所に関する確認テスト

（予習）

テキスト110-117ページを読んで、司法権の概念、司法権の独立について理解する。

（復習）

講義ノートの整理

第14回：

（講義）裁判所②

前回に引き続き、司法権の講義をする。裁判所に重要な役割の一つに、違憲審査権（違憲立法審査権）が憲法によって定められている。これは法の支配を実現する手段として、国会や内閣に対する裁判所の抑制機能となっている。そこで、国民の基本的人権を守るために機能する違憲審査権が政治的権力である国会や内閣に対して、どのような抑制機能を果たすのかを説明していくことにする。テキスト110～117ページ該当

（講義前演習）裁判所に関する確認テスト

（予習）

テキスト110-117ページを読んで、三権分立の構造の中で、違憲審査権が占める役割について理解する。

（復習）

講義ノートの整理

第15回：総括試験と振り返り

テキスト

吉田仁美（編）『スタート憲法 第3版』（2020年）成文堂

参考書・参考資料等

必要に応じて配布する。

学生に対する評価

- | | | |
|------------------------|-------|----------------|
| ①小テスト1回目（第5回目の講義時に実施） | 最大25% | 〈学習目標①および③に対応〉 |
| ②小テスト2回目（第10回目の講義時に実施） | 最大25% | 〈学習目標①および③に対応〉 |
| ③総括試験（第15回目に実施） | 最大50% | 〈学習目標②に対応〉 |

以上の評価対象を実施した上で、合計60%以上となった場合に、合格（単位認定）とする。

※ 小テストは、各回15分程度のものを予定しており、かつ講義中にWebClassのテスト機能を利用する。したがって、受験のためにパソコンは必携となる。 ※

※ 出席点および平常点の評価は一切しない。 ※

授業科目名：生涯スポーツⅠ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：倉地博美
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。			
本授業の学修目標は次のとおりです。			
①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。			
②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。			
③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。			
④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。			
授業の概要			
授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。			
授業計画			
第1回：【オリエンテーション】			
・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明			
・課題「受講理由と目標」作成			
(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)			
第2回：【実技】「インディアカ」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式			
第3回：【実技】「バドミントン(1)」 ・種目紹介 ・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル ・ダブルスゲーム			
第4回：【実技】「バドミントン(2)」 ・ショットの打ち分け ・シングルスゲーム			
第5回：【実技】「屋内ペタンク」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム			
第6回：【実技】「バレーボール(1)」 ・種目紹介 ・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に			
・ルール説明 ・ゲームシュミレーション			
第7回：【実技】「バレーボール(2)」 ・基本スキルの確認 ・レシーブドリル ・アタックとブロックモーション ・ゲーム形式			
第8回：【講義】「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結			

果・感想をまとめる。

第9回：【実技】「ドッチビー」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式

第10回：【実技】「アルティメット」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式

第11回：【実技】「フットサル」 ・種目紹介 ・基本スキルを習得 ・ルールを理解 ・ゲーム形式

第12回：【実技】「バスケットボール(1)」 ・種目紹介 ・基本スキルを習得 ・ルールの理解 ・ゲームシミュレーション

第13回：【実技】「バスケットボール(2)」 ・基本スキルの確認 ・応用ドリル ・ゲーム形式

第14回：【講義】「実技種目の振り返りとまとめ」

第15回：【講義】「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。

テキスト

教科書は使いません。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介します。

学生に対する評価

第1回授業時課題：8点→学習目標①に対応

第2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13回実技評価：66点→学習目標①～④に対応

第8回課題：10点→学習目標①～④に対応

第15回課題：16点→学習目標①～④に対応

授業科目名：生涯スポーツⅡ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：倉地博美
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。			
本授業の学修目標は次のとおりです。			
①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。			
②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。			
③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。			
④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。			
授業の概要			
「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。			
。テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。			
授業計画			
第1回：【オリエンテーション】			
・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明			
・課題「受講理由と目標」作成			
(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)			
第2回：【実技】企画事例の紹介「インディアカ」			
ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け			
第3回：【講義】「実技種目の企画書作成」企画実施例の紹介 ・企画書作成			
第4回：【実技】「企画種目1」前半			
・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム			
・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。			
・ソフトなスポーツを主軸に置く。			
・競技自体の紹介やルールの説明、簡単な練習から始める。			

競技例：ヨガ、バトミントン、ペタンク、モルック等

第5回：【実技】「企画種目1」後半

- ・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム
- ・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。
- ・ソフトなスポーツを主軸に置く。
- ・企画前半を振り返っての確認、実践的なゲーム、振り返りを行う。

競技例：ヨガ、バトミントン、ペタンク、モルック等

第6回：【実技】「企画種目2」

- ・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム
- ・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。
- ・ソフトなスポーツを主軸に置く。
- ・初回からの種目を変更し、別の企画を提案・実施する。

競技例：ヨガ、バトミントン、ペタンク、モルック等

第7回：【実技】「企画種目3」

- ・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム
- ・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。
- ・中盤は競技のジャンル幅を広げる。

競技例：ソフトバレーボール、ドッチビー、卓球等

第8回：【講義】これまでの競技を通して、生涯スポーツの活動に関する学び、映像資料を通じて、理解を深める。

第9回：【実技】「企画種目4」 ・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム

- ・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。
- ・中盤は競技のジャンル幅を広げる。
- ・ニュースポーツを中心に企画する。

競技例：ソフトバレーボール、ドッチビー、卓球等

第10回：【実技】「企画種目4」 ・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム

- ・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。
- ・中盤は競技のジャンル幅を広げる。
- ・企画した内容の評価と反省を深め、次回企画の検討を行う。

競技例：ソフトバレーボール、ドッチビー、卓球等

第11回：【実技】「企画種目5」

- ・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム
- ・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。
- ・ハードなスポーツも取り入れる。
- ・ハードスポーツにおける怪我等の危険性の理解や柔軟の重要性を説く。

競技例：フットサル、バスケットボール、バレーボール等

第12回：【実技】「企画種目5」

- ・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム
- ・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。
- ・後半はハードなスポーツも取り入れる。
- ・少人数のチーム戦や実戦形式の試合を実施する。

競技例：フットサル、バスケットボール、バレーボール等

第13回：【実技】「企画種目6」

- ・学生が取り上げた競技を紹介・説明・実演・練習・ゲーム
- ・学生自身に企画をコントロールする力を身につけさせる。
- ・後半はハードなスポーツも取り入れる。
- ・これまで競技種目から振り返り、総括的な実技を行う。

競技例：フットサル、バスケットボール、バレーボール等

第14回：【講義】「実技種目の振り返りとまとめ」

第15回：【講義】学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。

テキスト

教科書は使いません。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介します。

学生に対する評価

第1回j授業時課題：8点 → 学習目標①に対応

第3回：企画書：10点 → 学習目標①～④に対応

第2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13回実技：66点 → 学習目標①～④に対応

第15回：最終レポート：16点 → 学習目標①～④に対応

授業科目名:英語の論理 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1 単位	担当教員名: 横山雅彦
			担当形態: 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
高校までに学んだ学校文法(規範文法)を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。			
授業の概要			
この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。			
授業計画			
第1回:オリエンテーション、進行形:ing の現在分詞による表現、助動詞①:can, may など基本的な助動詞の意味と使い方			
第2回:助動詞②:must, have to など義務・必要性を表す助動詞、助動詞③:should, ought to など助言・推量の表現、助動詞④:will, would など未来・仮定法的な使い方			
第3回:TOEIC IP TEST			
第4回:助動詞⑤:助動詞の否定形や疑問文での使い方、助動詞⑥:助動詞の過去形や完了形との組み合わせ、不定詞①:to不定詞の基本的な用法(名詞的用法)			
実技演習①:映像教材のリスニングとスピーキング動画の作成提出:主題 助動詞			
第5回:不定詞②:to不定詞の基本的な用法(名詞的用法)、不定詞③④:形容詞的・副詞的用法の違いと例文			
第6回:不定詞⑤⑥:不定詞の否定形、完了形、意味上の主語、不定詞⑦:不定詞を含む慣用表現や文構造の理解			
第7回:不定詞⑧:不定詞を含む慣用表現や文構造の理解、動名詞①②:動名詞の基本的な使い方と主語・目的語としての用法			
第8回:中間テストと解説、振り返り			
実技演習②:映像教材のリスニングとスピーキング動画の作成提出:主題 不定詞			
第9回:動名詞③④⑤:動名詞と不定詞の使い分け、慣用表現、否定形			

第10回:名詞①:可算名詞・不可算名詞の区別と基本用法、名詞③:集合名詞、抽象名詞、複数形の特殊な使い方

第11回:名詞④:集合名詞、抽象名詞、複数形の特殊な使い方、名詞⑤⑥:名詞句の構造、所有格、名詞の修飾

第12回:冠詞:a, theに関する冠詞の基礎、比較①②:原級・比較級・最上級の基本構文

第13回:比較③④:than を使った比較、as～as 構文、比較⑤:比較の強調・省略・倒置

第14回:比較⑥:比較の強調・省略・倒置、比較⑦:慣用表現(the 比較級, the 比較級 など)

実技演習③:映像教材のリスニングとスピーキング動画の作成提出:主題 名詞と冠詞、全体復習

第15回:期末テストと総括による振り替え

テキスト

『英文法授業ノート』(ぺりかん社)

参考書・参考資料等

学生に対する評価

中間テスト 30 点

期末テスト 30 点

平常点40点

授業科目名:英語の論理Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 横山雅彦
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
高校までに学んだ学校文法(規範文法)を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。			
授業の概要			
高校までに学んだ学校文法(規範文法)を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。			
この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。			
授業計画			
第1回:比較⑨:形容詞・副詞を使った比較表現(比較級・最上級)の使い方、形容詞①②:名詞を修飾する形容詞の基本的な用法と語順、意味の違い			
第2回:形容詞③：複数の形容詞の並べ方や限定用法・叙述用法の違い、副詞①②：動詞・形容詞・文全体を修飾する副詞の基本と位置			
第3回:副詞③④⑤：頻度・程度・様態などの副詞の種類と使い分け			
実技演習①:映像教材のリスニングとスピーキング動画の作成提出:主題 比較、形容詞、副詞			
第4回:動詞①②③：一般動詞・状態動詞・動作動詞の使い方と時制との関係			
第5回:受動態①②③：be動詞＋過去分詞の構造と、能動態との意味の違い			
第6回:文型①②③：基本5文型（SVC, SVO, SVOOなど）の理解と構文分析			
第7回:文型④：複雑な文型の応用と語順の理解、原形不定詞：使役動詞や知覚動詞の後に使われる原形不定詞の用法、完了形①：現在完了の基本（経験・継続・完了・結果）			
実技演習②:映像教材のリスニングとスピーキング動画の作成提出:主題 動詞、文章への整理			
第8回:中間テストと解説、振り返り			
第9回:完了形②③④：過去完了・未来完了の用法と時制の一致との関係			
第10回:完了形⑤⑥：完了形の否定・疑問文、継続的な動作の表現、時制の一致：主節と従属節の			

時制の関係と一致のルール

第11回:分詞①②③：現在分詞・過去分詞の形と用法（形容詞的用法など）

実技演習③:映像教材のリスニングとスピーキング動画の作成提出:主題 完了形、時間軸に合わせた言葉

第12回:分詞④⑤⑥：分詞の語順、意味の違い、複雑な修飾構造の理解

第13回:分詞構文①②③：副詞節を簡略化した分詞構文の基本と使い方

第14回:分詞構文④⑤：分詞構文の応用（時・理由・条件などの表現）

第15回:期末テストと総括、振り返り

実技演習④:映像教材のリスニングとスピーキング動画の作成提出:主題 全体復習

テキスト

『英文法授業ノート』（ぺりかん社）

参考書・参考資料等

学生に対する評価

中間テスト 30 点

期末テスト 30 点

平常点40点

授業科目名:英語コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 横山雅彦
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。			
授業の概要 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。			
授業計画 第1回:Unit 01 “Nice to meet you!”前半 基本的な挨拶表現の習得 第2回:Unit 01 “Nice to meet you!” 後半 be動詞の使い方の確認 第3回:Unit 02 “What do you do?” 前半 一般動詞の現在形の導入 第4回:Unit 02 “What do you do?” 後半 三人称単数の動詞の使い方 第5回:Unit 03 “Do you like noodles?” 前半 like + 動名詞の使い方 第6回:Unit 03 “Do you like noodles?” 後半 (BONUS 1-3は任意) 追加の語彙・会話練習 第7回:Unit 04 “How often do you exercise?” 前半 頻度を表す副詞の使い方 第8回:中間テストと振り返り 第9回:Unit 04 “How often do you exercise?” 後半 頻度表現の応用 第10回:Unit 05 “I’m listening to music.” 前半 現在進行形の導入 第11回:Unit 05 “I’m listening to music.”後半 現在進行形の疑問文・否定文 第12回:Unit 06 “Where were you yesterday?” 前半 be動詞の過去形の使い方 第13回:Unit 06 “Where were you yesterday?” 後半 時間表現の確認 第14回:BONUS 4-6 語彙強化、会話練習、文化的トピックなど 第15回:期末テストと振り返り			
テキスト Smart Choice 1 (Oxford University Press)			
参考書・参考資料等			

学生に対する評価 中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点40点

授業科目名:英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 横山雅彦
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。			
授業の概要 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。			
授業計画 第1回:Unit 07 “Which one is cheaper?” 前半 比較表現を使って物の値段を尋ねる・答える練習 第2回:Unit 07 “Which one is cheaper?” 後半 比較表現の応用と実践練習 第3回:Unit 08 “They’re very friendly.” 前半 人の性格や特徴を表す形容詞の使い方 第4回:Unit 08 “They’re very friendly.” 後半 形容詞を使った会話練習 第5回:Unit 09 “You can visit the zoo.” 前半 助動詞 can を使って可能性を表現する練習 第6回:Grammar:051 文型①、052 文型②、053 文型③基本 5 文型（SVC, SVO, SVOO など）の理解と構文分析 Activity:Unit 09 “You can visit the zoo.” 後半(BONUS 07-09 は任意) 助動詞 can の応用と実践練習（聞き取りと会話） 第7回:Unit 10 “Is there a coffee shop?” 前半 場所を尋ねる・答える表現の練習 第8回:中間テストと振り返り 第9回:Unit 10 “Is there a coffee shop?” 後半 場所を尋ねる・答える表現の応用 第10回:Unit 11 “I had a good time.” 前半 過去形の導入、過去の出来事について話す練習 第11回:Unit 11 “I had a good time.” 後半 過去形の疑問文・否定文、過去の出来事の描写 第12回:Unit 12 “I’m going to go by car.”前半 未来形の導入、予定や計画について話す練習 第13回:Unit 12 “I’m going to go by car.”後半 未来形の疑問文・否定文、予定や計画の描写 第14回:BONUS 10-12 語彙強化、会話練習、文化的トピックなど 第15回:期末テストと振り返り			

テキスト Smart Choice 1 (Oxford University Press)
参考書・参考資料等
学生に対する評価 中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点40点

授業科目名:TOEICストラテジー I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 横山雅彦
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
【学習目標】			
TOEIC L&R450点以上を取得する。			
【DPとの関連】			
この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。			
授業の概要			
本来、「TOEIC英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEICのために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検やTOEFL・TOEIC、IELTSなどの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくにTOEIC対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEICには他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。			
以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&Rに特化してその対策を講じ、450点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできたGrammarやActivityの授業の土台があつてはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この15回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。			
Unitごとに前半はGrammar、後半はActivityを中心に学習する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
Unit 01 人物の動作と状態(Part 1)			
第2回 Unit 01 表・用紙(Part 7)			

第3回	Unit 02	疑問詞を使った疑問文(Part 2)
第4回	Unit 02	広告(Part 7)
第5回	Unit 03	日常場面での会話(Part 3)
第6回	Unit 03	品詞(Part 5)
第7回	Unit 04	アナウンス・ツアー(Part 4)
第8回	Unit 04	動詞(Part 5)
第9回	Unit 05	物の状態と位置(Part 1)
第10回	Unit 05	チャット(Part 7)
第11回	Unit 06	基本構文(依頼／提案・勧誘／申し出)と応答の決まり文句(Part 2)
第12回	Unit 06	手紙・Eメール(Part 7)
第13回	Unit 07	電話での会話(Part 3)
第14回	Unit 07	代名詞・関係代名詞(Part 5)
第15回		テストと振り返り
テキスト		
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)		
参考書・参考資料等		
学生に対する評価		
小テスト:60 点		
期末テスト:40点		

授業科目名:TOEICストラテジーⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 横山雅彦
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
【学習目標】			
TOEIC L&R450点以上を取得する。			
【DPとの関連】			
この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。			
授業の概要			
本来、「TOEIC英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEICのために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検やTOEFL・TOEIC、IELTSなどの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくにTOEIC対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEICには他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。			
以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&Rに特化してその対策を講じ、450点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできたGrammarやActivityの授業の土台があつてはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この15回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。			
Unitごとに前半はGrammar、後半はActivityを中心に学習する。			
授業計画			
第1回 Unit 08 ラジオ放送・宣伝(Part 4)			
第2回 Unit 08 接続詞・前置詞(Part 5)			
第3回 Unit 09 Yes/No 疑問文(Part 2)			

第4回	Unit 09 ダブルパッセージ(2つの文書)(Part 7)
第5回	Unit 10 オフィスでの会話①(Part 3)
第6回	Unit 10 Part 5の復習(Part 5)
第7回	Unit 11 留守番電話(Part 4)
第8回	Unit 11 トリプルパッセージ(3つの文書)(Part 7)
第9回	Unit 12 オフィスでの会話②(Part 3)
第10回	Unit 12 Part 7(Part 7)
第11回	Unit 13 Part 1とPart 2の復習(Part 1, Part 2)
第12回	Unit 13 時制・代名詞・語い問題(Part 6)
第13回	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部(Part 4)
Unit 14	つなぎ言葉・文の挿入(Part 6)
第14回	Unit 15 Part 3とPart 4の復習(Part 3, Part 4)
Unit 15	Part 6の復習(Part 6)
第15回	テストと振り返り
テキスト	
MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)	
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	
小テスト:60 点	
期末テスト:40点	

授業科目名:上級英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1 単位	担当教員名: 横山雅彦
			担当形態: 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
【学習目標】			
主にチャンク(かたまり)の状態で見えるようになるべき表現を、徹底的に口頭トレーニングし、英語コミュニケーションの基盤を構築する。			
【DPとの関連】			
この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。			
『英語のハノン——コミュニケーションのための英会話スーパードリル／フレーズ編』筑摩書房			
＊購入については、第1回の授業で指示する。			
授業の概要			
ダイアログのロールプレイングと音読・暗唱、およびパターン・プラクティスによるドリルを通して、英語スピーキングの際に強力な武器となる次のような「フレーズ」を習得する。			
1. 「かたまりの表現」として使えるようになっておくべき表現			
2. 一般的な文法ルールからはずれた表現			
3. 補足的な文法項目を用いた表現			
4. 表現の幅を広げるための表現			
5. 会話のいきいきとしたフロー(流れ)の中で身につけるべき表現			
授業計画			
第1回 Unit 1／Dialog Drill			
Is this seat taken?(この席誰か座ってる?)			
第2回 Unit 1／Dialog Drill			
Would you like to join us?(ユキも参加しない?)			

第3回 Unit 2／Drill Drill

I appreciate your advice

(アドバイスをくれてありがとう)

第4回 Unit 3／Drill Drill

What kinds of movies do you watch?

(どんな種類の映画を見るの?)

第5回 Unit 4／Drill Drill

You could visit Furano in Hokkaido

(北海道の富良野に行くといひよ)

第6回 Unit 5／Drill Drill

I applied for the internship program for this spring

(この春のインターンシップ・プログラムに応募したんだ)

第7回 Unit 6／Drill Drill

Are you familiar with audio equipment?

(オーディオ機器のこと詳しいの?)

第8回 Unit 8／Dialog Drill

What if you happen to see Steven Lucas?

(スティーブン・ルーカスを偶然見かけたらどうする?)

第9回 Unit 9／Dialog Drill

I might have a fever

(熱があるかもしれない)

第10回 Unit 10／Dialog Drill

You're meant to be here

(ユキはここにいてくべきだよ)

第11回 Unit 11／Dialog Drill

How about if we have a big lunch today?

(今日のランチは豪勢にいかない?)

第12回 Unit 12／Dialog Drill

If you ask me, Megaflix is the best

(僕に言わせると、メガフリックスが一番だね)

第13回 Unit 13／Dialog Drill

Company employees usually retire at the age of 65

(会社員はふつう65歳で定年だよ)

第14回 Unit 14／Dialog Drill

I'm having trouble downloading the audio file

(音声ファイルをダウンロードするのに手こずっているんだ)

第15回 Unit 20／Dialog Drill

Working with you means a lot to me

(ユキと一緒に仕事をすることが僕にとってとても重要なんだ)

テキスト

『英語のハノン——コミュニケーションのための英会話スーパードリル／フレーズ編』筑摩書房

参考書・参考資料等

学生に対する評価

小テスト:60 点

期末テスト:40点

授業科目名:上級英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 横山雅彦 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。			
授業の概要			
目的			
TOEIC(R) L&Rテストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力+テスト知識」を以てTOEIC (R) L&Rテストでのスコアアップを目指します。			
概要			
リスニング対策とリーディング対策をバランス良く進め、その中で語彙への興味を高める工夫や、問題を解く上での考え方に触れながら、スコアアップにつながる学習を目指します。			
授業計画			
1週目 オリエンテーション			
UNIT 1 TOEIC Test 出題傾向および傾向と対策			
2週目 UNIT 2 Travel & Airports 旅行と空港			
3週目 UNIT 3 Sightseeing & Hotels 観光とホテル			
4週目 UNIT 4 Dining & Restaurants ダイニング&レストラン			
5週目 UNIT 5 Sports & Entertainment スポーツ&エンターテインメント			
6週目 UNIT 6 Fashion & Shopping ファッション&ショッピング			
7週目 UNIT 7 School & Culture 学校と文化			
8週目 UNIT 8 Review Test 1 復習テスト1と解説			
9週目 UNIT 9 Transportation & Commuting 交通と通勤			
10週目 UNIT 10 Family Life & Home 家族生活と家庭			
11週目 Unit 11 Computers & the Internet コンピューターとインターネット			
12週目 Unit 12 Offices & Office Supplies オフィスと事務用品			
13週目 Unit 13 Jobs & Recruitment 仕事と採用			
14週目 Unit 14 Business, Accounting & Banking ビジネス、会計、銀行			
15週目 期末テストと振り返り			
テキスト			
Stepping Stones for the TOEIC Test (朝日出版)			

参考書・参考資料等

- ・各UNIT終了後に行う確認小テスト 40点
- ・期末テスト 40点
- ・通常点20点(各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等)

授業科目名:TOEFLストラテジー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1 単位	担当教員名: 和泉有香 担当形態: 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 【学習目標】 ① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル ・ ただ与えられた問題を解くだけではなく、「聞く人(読む人)が理解しやすい情報の提示法」を意識し、習得する。 ・ 今現在必要な英語力・コミュニケーション力と同時に、社会人になってからも役立つ知識と英語力を身につける。			
授業の概要 目的 TOEFLテストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力+テスト知識」を以てTOEFLテストのスコア向上を目指します。 概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く行うことにより、両分野でスコアに直結する英語力を付けます。授業では大量のリスニングを行い、同時に発音と音読も重視します。			
授業計画 ガイダンス 第1回:Unit 07内容把握問題に挑戦する(Part 7) 第2回:Unit 08 アナウンス・宣伝(Part 4)、語彙問題・その他 (Part 5) 第3回:単語小テスト1 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読 第4回:Unit 09 ステートメント・付加疑問文(Part 2)、時制・代名詞・語彙(Part 5) 第5回:Unit 10 オフィスでの会話①(Part 2) 第6回:単語小テスト2, 3 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学			

習箇所全ての音読

第7回:Unit 10 マルチプルパッセージ(2つの文書)(Part 7)

第8回:Unit 11 トーク(会議・イベント)(Part 4)、Part 5の復習

第9回:単語小テスト4, 5 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学

習箇所全ての音読

第10回:Unit 12 オフィスでの会話②(Part 3)、つなぎ語・文選択(Part 6)

第11回:Unit 13 ニュース・ラジオ放送(Part 4)

第12回:単語小テスト6, 7 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読

第13回:Unit 13 マルチプルパッセージ(3つの文書)(Part 7)

第14回:Unit 14 図表問題と意図問題(Part 3)

第15回:単語小テスト8

まとめと授業内テスト 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読

テキスト

MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC (R) L&R TEST ALL in One Advanced 桐原書店

参考書・参考資料等

- ・ 授業参加度: 30点(学習目標②に対応)
- ・ 小テスト: 30点(学習目標①に対応)
- ・ 最終試験: 40点(学習目標①に対応)

合計60点以上で合格となります。

授業科目名:IELTSストラ テジー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 和泉有香
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。			
【学習目標】 ① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル ・ ただ与えられた問題を解くだけではなく、「聞く人(読む人)が理解しやすい情報の提示法」を意識し、習得する。 ・ 今現在必要な英語力・コミュニケーション力と同時に、社会人になってからも役立つ知識と英語力を身につける。			
授業の概要 目的 IELTSテストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力+テスト知識」を以てIELTSテストのスコア向上を目指します。			
概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く行うことにより、両分野でスコアに直結する英語力を付けます。授業では大量のリスニングを行い、同時に発音と音読も重視します。			
授業計画 ガイダンス 第1回:Unit 07内容把握問題に挑戦する(Part 7) 第2回:Unit 08 アナウンス・宣伝(Part 4)、語彙問題・その他 (Part 5) 第3回:単語小テスト1 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読 第4回:Unit 09 ステートメント・付加疑問文(Part 2)、時制・代名詞・語彙(Part 5) 第5回:Unit 10 オフィスでの会話①(Part 2) 第6回:単語小テスト2, 3 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学			

習箇所全ての音読

第7回:Unit 10 マルチプルパッセージ(2つの文書)(Part 7)

第8回:Unit 11 トーク(会議・イベント)(Part 4)、Part 5の復習

第9回:単語小テスト4, 5 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学

習箇所全ての音読

第10回:Unit 12 オフィスでの会話②(Part 3)、つなぎ語・文選択(Part 6)

第11回:Unit 13 ニュース・ラジオ放送(Part 4)

第12回:単語小テスト6, 7 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読

第13回:Unit 13 マルチプルパッセージ(3つの文書)(Part 7)

第14回:Unit 14 図表問題と意図問題(Part 3)

第15回:単語小テスト8

まとめと授業内テスト 授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読

テキスト

MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC (R) L&R TEST ALL in One Advanced 桐原書店

参考書・参考資料等

- ・ 授業参加度: 30点(学習目標②に対応)
- ・ 小テスト: 30点(学習目標①に対応)
- ・ 最終試験: 40点(学習目標①に対応)

合計60点以上で合格となります。

授業科目名:ICTリテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 南畑淳史
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
① 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利用して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の文書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。			
[関連するディプロマポリシー]			
(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能 の活用力			
授業の概要			
【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要なICTツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他のICTシステム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。			
【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作方法を身につけるほか、図書館システムやWebClass(学習支援システム)などの学内ネットワークやクラウドサービスの活用方法や、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法を習得し、自分が所有するノートパソコン等を有効活用できるようになることを目指します。その前提として、インターネット利用時やデータ収集・分析時において備えておくべき「情報セキュリティ」や「情報モラル」に関する知識と、その知識を活かすことができる正しい態度を身につけます。 この科目での学びで修得した知識とスキルを活用することにより、今後の大学生活の中で、課題・問題が発生した場合でも、ICTツールやネットワークを活用した解決方法が考えられるようになり、日常的に効果的・効率的な学習を行うことができます。			

授業計画

第1回 授業計画について説明

各自のノートPCの環境について確認

講義

「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について

必須事項:

- ・授業概要の説明
- ・PC等、学習環境の確認
- ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書Section4Step1 Lesson1-3)をスライドで解説

第2回 講義

「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル)(続きは第14回)

WebClassの小テスト機能の利用方法について説明

必須事項:

- ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書Section4Step2 Lesson1-3)をスライドで解説
- ・WebClassの小テスト機能の利用方法について説明

第3回 第3回 Windowsの基礎＋クラウド利用

- ・Windowsの基本操作
- ・クラウド利用／データ管理運用(クラウド・ローカルの区別)

必須事項:

- ・教科書(Section1 Step1 Lesson1-4)に沿って、Windowsの基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する
- ・クラウド利用(Outlook／OneDrive)／データ管理運用(クラウド・ローカルの区別)を解説
- ・自分のPCの「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する
- ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する

第4回 大学のシステム理解(WebClass等各サービス)／問題解決のための情報収集・ネット検索

必須事項:

- ・教職員学生専用メニューの概略説明(学生に関係する項目:WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス(図書検索など))
- ・Outlookの利用(送受信などの操作:PCで大学のメニューから、スマホでアプリから;アクセス先は同じことを説明)
- ・ブラウザを使ったネット検索の説明(基本Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介)

・Zoomの利用(アカウント登録させる。ブレイクアウトルームとeホワイトボードを組み合わせたグループワークを経験させる)

第5回 第5回 レポート作成の作法①

Word 準備問題、チラシの作成

必須事項:

- ・教科書(Section1 Step2 Lesson1)に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する
- ・教科書(Section2 Step1 Lesson1)に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する

第6回 ・レポート作成の作法②

レポートの作成

必須事項:

- ・教科書(Section2 Step1 Lesson2)に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる

第7回 ・データ分析基礎演習①

Excel 準備問題

必須事項:

- ・教科書(Section1 Step2 Lesson2)に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力、オートフィルを演習する

第8回 ・データ分析基礎演習②

成績データの整理

必須事項:

- ・教科書(Section2 Step2 Lesson1)に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・別シートのデータを利用、などを演習する。

第9回 ・データ分析基礎演習③

(成績データの資料化(教科書Section2 Step2 Lesson2))

必須事項:

- ・教科書(Section2 Step2 Lesson2)に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。

第10回 WordとExcelの統合利用

必須事項:

- これまでのWordとExcelの振り返り
- 必要に応じて補足の説明や練習を行う
- WordとExcelの統合利、および次回の中間試験について説明する

第11回 ・中間試験(40分)

- ビデオレポートの作成練習

- Word&Excelの操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。
- 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoomを用いたレコーディングについて説明する。

第12回 ・プレゼンテーション作成①

- PowerPoint 準備問題
- スライド作成の注意点

必須事項:

- 教科書(Section1 Step2 Lesson3)に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習
- 教科書(Section3 Step2 Lesson1)に沿って、文字の大きさに注意、文章に注意、図解表現の利用、色の使い過ぎに注意の解説
- プレゼンテーション課題の提示

第13回 ・プレゼンテーション作成②

- スライドの作成
- プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習

必須事項:

- 教科書(Section3 Step2 Lesson2)を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明
- プレゼンテーション作成の指導

第14回 講義

- 「セキュリティ・情報モラル」(主にAI倫理)

必須事項:

- 「セキュリティ・情報モラル③」(教科書Section4Step2 Lesson4-5)をスライドで解説
- データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI倫理について考える.pptx」を活用

第15回 ・学習振り返りアピールシート作成

必須事項: ・小テスト(情報セキュリティ確認テスト)の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示
テキスト 【リファレンス動画付き】つくりたい!がカタチになる 学生のための Office スキル活用&情報モラル、noa 出版、ISBN: 9784908434457 その他、ワークシートや視聴コンテンツ資料など必要に応じて授業中に配付する。
参考書・参考資料等 なし
以下のすべての項目について、課題提示の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科目を合格(60点以上獲得)することができる。(※切厳守) 小テスト((情報セキュリティ確認テスト)) 10点 【学習目標①に対応】 課題1:データ管理方法ミニレポート 10点 【学習目標②に対応】 課題2:指定された体裁の文書の作成 15点 【学習目標④に対応】 (※上述15点には、授業中の操作結果ファイルの提出点3点を含む) 課題3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15点 【学習目標④に対応】 (※上述15点には、授業中の操作結果ファイルの提出点3点を含む) 中間テスト(Word+Excel) 25点 【学習目標④に対応】” 課題4:指定された体裁の発表スライドの作成 10点 【学習目標④に対応】 課題5:プレゼンテーション 10点 【学習目標(③④)に対応】 課題6:アピールシートの作成 5点 【学習目標①～④に対応】

授業科目名：教育学概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：樋田大二郎、廣岡義之
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
樋田・廣岡両名ともに原則15回を担当するが、各テーマ別に主たる担当者として授業を進行する。			
テーマⅠ：教育とは何か（教育の基本的概念） 第1回（樋田 主担当）			
テーマⅠ：教育とは何か（教育の歴史・思想） 第2～3回（廣岡 主担当）			
テーマⅠ：教育とは何か（義務教育について） 第4回（樋田 主担当）			
テーマⅡ：教育の目的・内容・方法（教育の目的と変遷） 第5～6回（樋田 主担当）			
テーマⅡ：教育の目的・内容・方法（教育の方法と評価） 第7～9回（廣岡 主担当）			
テーマⅢ：現代社会と教育（教育制度） 第10～12回（廣岡 主担当）			
テーマⅢ：現代社会と教育（社会教育と教育問題） 第13～14回（樋田 主担当）			
①「教育とはなにか」という問題への関心をもつこと			
②教育思想に関する基本的な知識の習得			
③教育の歴史に関する基本的な知識の習得			
④教育の制度に関する基本的な知識の習得			
⑤教育目的・教育内容・教育方法に関する基本的な知識の習得			
⑥生涯学習と社会教育に関する基本的な知識の習得			
⑦現代日本の教育問題に関する基本的な理解			
⑧教育に関するトピックに関し、自分で情報を収集し、自分の意見を持ち、他の学生と意見交換ができること			
授業の概要			
この授業は、「教育」という営みに関して「教育学」の基本的な知識を獲得したうえで、「教育とはなにか」という「教育」の本質に関する自分なりの考えを確立することを最終目標とします。			
そのために、これまでの教育思想に関する基本的な理解、家庭や地域、社会を含めた教育の歴史に関する基本的な理解、教育の制度に関する基本的な理解、教育の理念・目的に関する基本的な理解、生涯学習と社会教育に関する基本的な理解、現代の教育問題に関する基本的な理解をめざします。			

授業の中で2回、教育のトピックについてのグループワークを行います。その際には学んだ学習内容に基づき自分の意見を明確にし、グループの他の学生と意見交換を行います。

授業計画

【第1回】

オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等についてのオリエンテーション

I 教育とは何か：①人間形成と教育；人間の育ち方の特徴と教えるという行為、教育の本質
予習

- ・「教育」と「発達」という言葉の語源を調べてくる（120分）
- ・各国の合計特殊出生率を調べてくる（120分）

【第2回】

I 教育とは何か：②子どもの生活：社会の変容に伴う課程や地域と子どもの生活の変化 ③近代教育思想の系譜；西洋における教育思想の歩み（その1）ルソー

予習

指定された教育思想家について調べてくる（240分）

【第3回】

I 教育とは何か：③近代教育思想の系譜；西洋における教育思想の歩み（その2）ペスタロッチとフレーベル

予習

- ・「日本国憲法」と「教育基本法」で、義務教育について書かれている条文を調べてくる（90分）
- ・次回のグループワークの教材を読み、内容を要約してくる（150分）

【第4回】

I 教育とは何か：④義務教育の制度と課題：公教育はどのように成立したか、義務教育の成立過程
◎グループワーク1：義務教育学校の選択制をどう考える？

復習

- ・グループワークシート1を完成させる（150分）

予習

- ・「教育基本法」で教育の目的が書かれている箇所を調べてくる(90分)

【第5回】

II 教育の目的・内容・方法：①日本の教育目的：日本の教育目的、各学校の教育目的はどうなっているか

予習

- ・日本の学習指導要領の変遷を調べる (240分)

課題

★ワークシート1提出

【第6回】

Ⅱ 教育の目的・内容・方法：②日本の教育課程；教育課程とは何か、教育課程の類型、日本の教育課程の基準とその変遷

小学校から高校まで自分が使用した教科書を使い、グループワークを行う

予習

日本の小学校での英語教育について調べる (240分)

【第7回】

Ⅱ 教育の目的・内容・方法：③教育の方法

ビデオ：「韓国の小学校での英語教育」

予習

第8回までに、中間レポート：テーマ「韓国の小学校での英語教育の特徴と日本への示唆」を書いてくる (240分)

【第8回】

Ⅱ 教育の目的・内容・方法：③教育の方法；教育方法の類型と教育方法に関する思想

予習

- ・「高等学校指導要録」について調べる (120分)
- ・「大村はま」さんの詩を読んで感想を書いてくる (120分)

課題

★中間レポート提出

【第9回】

Ⅱ 教育の目的・内容・方法：④教育評価；教育評価とは何か、教育評価の実際

予習

世界の国のうちどこか1カ国の学校制度を調べる (240分)

【第10回】

Ⅲ 現代社会と教育：①日本の世界の教育制度；教育制度の類型と日本の学校制度の問題

◎グループワーク2：日本の学校制度を変えたら？

復習

グループワークシート2を完成させる（150分）

予習

「中等教育学校」について調べてくる（90分）

【第11回】

Ⅲ 現代社会と教育：②幼児教育と初等中等教育；日本の幼児教育、初等中等教育の現状と課題

予習

指定された事項、人物について調べてくる（240分）

課題

★ワークシート2提出

【第12回】

Ⅲ 現代社会と教育：③日本の教育制度の歴史；明治維新前後から現代までの学校制度の歴史

予習

○「ミッションレポート」の内容をワークシートにまとめてくる（240分）

【第13回】

Ⅲ 現代社会と教育：④生涯学習と社会教育；生涯学習の考え方と日本の社会教育の現状

予習

指定された教育問題について、現状を調べてくる（240分）

【第14回】

Ⅲ 現代社会と教育：⑤現代日本の教育問題；主な教育問題の現状と課題

予習

総括試験に向けてこれまでの学修のまとめを行う（480分）

【第15回】

授業の振り返りと総括

テキスト

広岡義之著『ボルノー教育学研究増補版 下巻』風間書房

その他、各授業時に教材としてプリントと資料を配布するので、それをきちんとファイルすることが必要です。

参考書・参考資料等

『平成30年版 教育六法』の他、授業時に随時紹介します。

学生に対する評価

①授業の振り返りと総括試験	50%
②中間レポート	20%
③グループワーク時のワークシート（10%×2回）	20%
④宿題提出	10%

授業科目名：教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平井正朗
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①大項目 「問題解決能力を身につける」			
中項目 「問題発見力 レベル2 〈現状を認識し、生じている問題に気づき、解決のための課題を見つける。〉」			
教育現場では、「チーム学校」の下、教職員がそれぞれの役割を意識しながら保護者や地域の人々、産業界も巻き込みつつ、協働的に生徒の成長に関わることで不可欠です。その上で、教職員一人ひとりが、各自の課題解決に向けて具体的な目標を設定し、その実現に向けてPDCAサイクルを展開することが健全な学校運営とつながるという認識を深めていただきたいと思います。			
②大項目 「社会に貢献できる人間になる」			
中項目 「社会的能動性 レベル2 〈集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動できる。〉」			
一人一人の教師が、課題解決に向けての自己の役割を自覚しながら、チーム学校のスピリッツの下、同僚と協働する資質を育成することが重要です。そのような資質を本授業を通して養います。			
学校では日々、様々な課題が発生します。それぞれの事象に対し、教職員は情報を共有、解決に向けて合意形成の下、説明責任を意識しながら解決に向けて取り組まなければなりません。授業改善については、教員の学び合いを基調とする効果的なOJTやOff-JTを例示しつつ、スキル・アップの方法論も紹介します。			
授業の概要			
本授業の目的は、教師という職業の意義・役割・職務内容等に関する学修を進め、将来、教育現場で活躍できる資質・能力を養うことです。同時に、「チーム学校」の一員として協働する姿勢を涵養します。具体的には、教職観の変遷、教員養成の歴史、教職に関する法・制度、職場環境、教育現場の現状課題等を扱いつつ、新学習指導要領において求められる教師像についても外観します。さらに。事例研究を通じて、教職についての背景知識を強化します。			
授業計画			
1 回目			

- ・オリエンテーション
(本授業の目標、内容、成績評価、授業を受ける上での留意点)
- ・事例研究
- ・教職論を学ぶ必要性についてー今、教師に求められるもの

2回目

- ・講義：「日本の伝統的な教師像」（教職観）
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・自分たちのイメージや昭和40年代から現代までの教師像の変遷を経て、現代の教師に必要な資質や人物像を調べる。

3回目

- ・講義：「教師と教員養成の歴史」
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・教員養成の歴史から免許制度の現状と課題を把握する。

4回目

- ・講義：「新学習指導要領において求められる教師像」
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・新学習指導要領のポイントとなる4点を調べ、資質・職業的特徴を理解する。

5回目

- ・講義「教員の任用と服務」
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・教員の任用・身分・服務から義務と処分・懲戒・勤務時間を学ぶ。

6回目

- ・講義「教師の役割と仕事」「管理職・主任の役割」
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・教員の身分と業務内容について学び、諸外国との対比をもって、現状の課題と対応を説明する。

7回目

- ・講義「教材研究」「生涯教育」
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・現代の教育現場の課題を取り上げ、事例研究を基に教材研究・生涯学習で大切なことを学ぶ。

8回目

- ・講義「教師の職場環境」
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・学校や教員の役割について学び、具体策について検討する。

中間課題の提示

9回目

- ・中間課題のグループ・プレゼンテーション
(パワーポイント等を使用して、発表する)

中間課題の提出

- ・1回目～8回目までの現状の課題の振り返り

10回目

- ・講義「教育現場の課題」
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・各自が提出したプレゼンテーションを基に、課題について連携し、再確認と理解を深める。

11回目

- ・講義「チーム学校」(新学習指導要領に対応する事例研究)
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・教育現場でのマネジメント機能強化につながるチーム学校、体制について調べる。

12回目

- ・講義「教師の資質向上と研修」(新学習指導要領に対応する事例研究)
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表

- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・入職1年目や2年目の研修の事例などから教員の資質向上のための方法について模索する。

13回目

- ・講義「ICT活用の個別最適化学習」（新学習指導要領に対応する事例研究）
- ・与えられたテーマについてグループワーク、発表
- ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。
- ・現代の時代背景から求められているものを把握する。

14回目

- ・模擬授業／模擬HR体験と相互評価
（時間制限付きで模擬授業・模擬HRを展開、相互評価しあう）

最終課題の提示

15回目

- ・模擬授業／模擬HR体験と相互評価（続き）
（現場教員の話を実況で視聴）

最終課題の提出

テキスト

教材として資料等を配布

参考書・参考資料等

佐藤晴雄 「教職概論 第5次改訂版」 学陽書房

学生に対する評価

- ① 教職概論に関する事例へのコメント10回×3＝30％
- ② 中間課題1回×30＝30％
- ③ 最終課題1回×40＝40％

最終評価は、①から③の合計とし、100点満点とする。

授業科目名：教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋田大二郎
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる			
●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる			
●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる			
授業の概要			
教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。 。			
授業計画			
第1回：「教育社会学」とはどんな学問かを考える ・授業の導入 ・偏差値で人を計ることはできないこと			
第2回：共感的理解-この授業での理解			
第3回：いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態			
第4回：いじめっ子を集団構造から離脱させる方法ーいじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に			
第5回：不登校（1）見る ー不登校の事例から子供の生活の変化を見るー			
第6回：不登校（2）知る ー生じた課題に対しての指導や教育政策の動向を知るー			
第7回：不登校（3）理解する ー不登校が起こる理由・課題・対応・変化を理解するー			
第8回：「学校」の多様性（1）5つの海外事例から ー海外の教育事情と法ー			
第9回：「学校」の多様性（2）日本の先進事例 ー教育関係法規と災害対策に基づく事例ー			
第10回：「学校」の多様性（3）日本の先進事例 ー学校安全と地域連携の事例ー			
第11回：社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義			
第12回：社会化（2）私だって社会化されている			
第13回：地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育 ー地域を主体とした学校との連携、教育政策動向による開かれた学校づくり			

第14回：教師になる前に考える（1）	様々な教育事情の反芻と教育の意義
第15回：教師になる前に考える（2）	教育の様々な変化への対応と理念
テキスト	
授業中に紹介する。	
参考書・参考資料等	
授業中に紹介する。	
学生に対する評価	
毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）	

授業科目名：学校経営論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平井正朗
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本科目の学習目標は以下である。 ①学校経営について考えられる。 ②良い学校づくりについて考えられる。 ③学校で起こる問題を学校経営の視点から考えることができる。 ④グループワークへを通して、メンバーの発言を整理して、関連づけた発言ができるようになる。 ⑤自分自身の学んだ結果を評価し、次の学びに生かせるようになる。			
授業の概要 教師の仕事の中心は授業である。その授業は学校経営の枠内で行われている。学校経営の学びを通して、教育や学校の在り方を理解し、学校組織の一員として協働することの重要性を学ぶ。 教職経験を積み重ねると校内での役割や仕事量が多くなり、スクールリーダーとして期待される。学校経営の授業を通して、スクールリーダーとしての在り方、学校経営の在り方について学ぶ。			
授業計画 【1回目】 ・ オリエンテーション （本授業の目標、内容、成績評価、授業を受ける上での留意点） ・ 学校に求められていること ・ 学校経営を学ぶ必要性について 【2回目】 公教育の経営 プリントpp 1～7 ・ 学校教育への考え方、公教育の実施原則、教育委員会の管理権と自己裁量権、学校に対する管理権の改革など学校経営・運営などにかかわる内容について学ぶ。 ・ 学校で起こった事例①へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。 ・ 学校経営論のプリントを配布する。このプリントをファイルし、次回より持参すること。			

【3回目】 学校づくりと学校経営 プリントpp8～14

- ・ 学校力の構築、学校づくりと経営、学校的意思形成と運営組織、学校教育の変化と学校づくりについて継続的な流れを含めて学ぶ。
- ・ 学校で起こった事例②へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。

【4回目】 学校づくりと法の関係 プリントpp15～20

- ・ 学校の規範法化、学校の経営法化、学校の私法化について学ぶ。
- ・ 学校で起こった事例③へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。

【5回目】 グループワーク テーマ 「開かれた学校づくり」

- ・ グループに分かれ、テーマについてのグループ討議を行い、代表者が発表。
- ・ グループ討議の感想文を提出する。この提出をもって出席とする。

【6回目】 生徒指導と学校づくり プリントpp25～32

- ・ 生徒指導体制、支援体制について学び、兵庫県内における支援機関について考える。
- ・ 学校で起こった事例⑤へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。

【7回目】 学級・ホームルーム経営 プリントpp32～37

- ・ 学級の歴史、学級の特質、学級経営の理論と実際、学級経営と学級担任について学ぶ。
- ・ 学校で起こった事例⑥へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。この提出をもって出席とする。
- ・ 中間課題 課題のテーマと提出日は、授業終了時に示す。

【8回目】 学校組織における教師のストレス プリントpp38～44

- ・ 教師のストレス、教育相談システムの構築、管理職のストレスについて学ぶことで組織の運営における望むべき形を学ぶ。
- ・ 学校で起こった事例⑦へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。
この提出をもって出席とする。

【9回目】 学校の危機管理 プリントpp48～53

- ・ 危機管理について学び、学校安全や不審者への対応について考える。

- ・ 学校で起こった事例⑧へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。
この提出をもって出席とする。

- 【10回目】 学校におけるミドルリーダーの役割 プリントpp54～58
 - ・ ミドルリーダーの役割、ミドルリーダーの育成と今後の課題、可能性について学ぶ。
 - ・ 学校で起こった事例⑨へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。 この提出をもって出席とする。

- 【11回目】 カリキュラムを核にした協働
 - ・ カリキュラム・マネジメントとその側面、カリキュラム・マネジメントの機能化について学ぶ。
 - ・ 学校で起こった事例④へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。 この提出をもって出席とする。

- 【12回目】 学校づくりと保護者・地域住民 プリントpp58～63
 - ・ グループ討議の結果から「開かれた学校づくり」について考える。開かれた学校づくりの在り方について学ぶ。

- 【13回目】 グループワーク 学校評価と学校づくり プリントpp64～66
 - ・ 学校評価の制度化、学校評価の方法、学校づくりに生かす学校評価の在り方について学ぶ。
 - ・ グループワーク グループに分かれ学校評価票を作成し、代表者が発表。
 - ・ グループで作成した学校評価票を各自が提出する。

- 【14回目】 日本における学校について概観
 - ・ 日本における公立学校を概観し、種々の私立学校について「学校経営」の視点から考察する。
 - ・ 日本における学校の危機管理の性質について「学校経営」の視点から考察する。
 - ・ 諸外国（フィンランド、アメリカ）の事例を基に教育格差などの要因について「学校経営」の視点から考察する。
 - ・ 学校で起こった事例⑩へのコメントを記入し、授業終了時に提出する。 この提出をもって出席とする。

- 【15回目】 グループ面談
 - ・ 前回の講義から学校安全の必要性について面談時に説明してもらう。
 - ・ 授業を振り返って 自己評価表への記入
グループ面談を実施し、授業の在り方や一人一人の授業の参加度等についての意見交換を行う。

最終課題の受け取り、出欠の確認
テキスト 各授業時に教材としてプリントと資料を配布
参考書・参考資料等 小島弘道 編 教師教育テキストシリーズ8 学校経営 学文社 2009/5/19
学生に対する評価 ① 学校経営に関する事例へのコメント10回×3＝30％ ② グループワークの感想文1回×4＝4％ ③ 学校評価票1回×6＝6％ ④ 中間課題1回×20＝20％ ⑤ 最終課題1回×40＝40％

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田武大
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。）、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。）の2点を重点的に育成することを意図しています。			
本科目の学習目標は次のとおりです。			
1. 教育制度の基本原則について説明できる。			
2. 学校現場に関する教育制度の基礎知識について説明できる。			
3. 教育行政に関する教育制度の基礎知識について説明できる。			
4. 教育制度の改善・改革案を提案することができる。			
授業の概要			
【目的】			
この授業では、教育制度に関する基本的な知識を理解し、よりよい教育制度にするための提案力を身につけることを目的とします。			
【概要】			
この授業では、現代教育に関するさまざまなトピックを取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などの制度がどのように関わっているのかを理解します。これによって、教師として必須の教育制度に関する基礎知識を習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、いかに現状を改善・改革するかというデザイン力を身につけることもめざします。なお、教育の事例や制度に対して受講者の意見を求めるなど、学生参加型の授業形式も必要に応じて取り入れます。			
授業計画			
【第1回】			
公教育の原理及び理念の説明と教育関係法規についてはじめに説明する。			
・オリエンテーション（授業の目標・内容、成績評価、授業の進め方、受講マナー等受講上の			

留意点)

- ・法律-教育行政-学校教育という制度の構造

○予習：参考書を活用して懲戒・体罰、出席停止の概要について学ぶ。(240分)

【第2回】

公教育における罰則等の仕組みと登校不可時における教育活動の状況への理解を得る。

- ・懲戒・体罰
- ・出席停止
- ・第1回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第2回の復習を行う。(180分)

○予習：参考書を活用していじめと就学義務について学ぶ。(60分)

【第3回】

教育制度をめぐる諸課題の例示と対応策の説明を行う。

- ・いじめ
- ・就学義務
- ・第2回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第3回の復習を行う。(180分)

○予習：参考書を活用して児童虐待と特別支援教育について学ぶ。(60分)

【第4回】

教育制度をめぐる諸課題の例示と対応策の説明と反芻を行う。

- ・児童虐待
- ・特別支援教育
- ・第3回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第4回の復習を行う。(180分)

○予習：参考書を活用して教員の服務について学ぶ。(60分)

【第5回】

公教育における教員の役割について制度的・経営的な側面から理解を図る。

- ・教員の服務
- ・第4回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第5回の復習を行う。(180分)

○予習：参考書を活用して分限処分、著作権について学ぶ。(60分)

【第6回】

教員の問題行為等を例示し、教育制度の理解を深め、同時に内在する課題を発見する。

- ・ 分限処分
- ・ 著作権
- ・ 第5回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第6回の復習を行う。（180分）

○予習：参考書を活用して教育課程の基準、教科書等の使用について学ぶ。（60分）

【第7回】

教育課程の基準や教科書等の使用の理由や理解を深めることで、教育行政の理念と仕組みを理解する。

- ・ 教育課程の基準
- ・ 教科書等の使用
- ・ 第6回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第7回の復習を行う。（180分）

○予習：参考書を活用して学校安全、学校事故について学ぶ。（60分）

【第8回】

学校保健安全法に基づく、学校安全の目的理解と学校事故の事例等からの課題と対応への理解を深める。

- ・ 学校安全
- ・ 学校事故
- ・ 第7回のふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第8回の復習を行う。（180分）

○復習：配付資料に基づいて、初回から第8回の総復習を行い、中間確認試験に備える。（180分）

○予習：参考書を活用して学校組織について学ぶ。（60分）

【第9回】

第1回から第8回までの取り組みを振り返る。その後、学校組織の構造について学ぶ。

- ・ 中間確認試験
- ・ 学校組織
- ・ 第8回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第9回の復習を行う。（180分）

○予習：参考書を活用して学校評価と情報公開、開かれた学校について学ぶ。（60分）

【第10回】

近年の閉鎖的な学校環境から開かれた学校への変化について学び、その具体的手法と影響について考察する。

- ・学校評価と情報公開
- ・開かれた学校
- ・第9回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第10回の復習を行う。（180分）

○予習：参考書を活用して教育の市場化について学ぶ。（60分）

【第11回】

公教育とその周辺環境における現代の教育の市場化について学ぶ。

- ・教育の市場化
- ・第10回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第11回の復習を行う。（180分）

○予習：参考書を活用して教育行政制度について学ぶ。（60分）

【第12回】

教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを、これまでの具体的な内容や課題を基に理解を深める。

- ・教育行政制度
- ・第11回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第12回の復習を行う。（180分）

○予習：参考書を活用して教育制度の基本原則について学ぶ。（60分）

【第13回】

教育制度の意義・原理・構造について、これまでの内容を基に、法的・制度的仕組みに関する基礎知識を改めて身につける。

- ・教育制度の基本原則
- ・第12回ふりかえり

○復習：配付資料に基づいて、第13回の復習を行う。（180分）

○予習：参考書を活用して学校体系について学ぶ。（60分）

【第14回】

これまでの内容を振り返り、諸課題や具体的事例について各自で取り上げ、複数の側面から学

校の意義、教育制度の意義について理解を深める。

- ・学校体系
- ・子供の生活の変化による課題理解
- ・諸外国比較

○復習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。（300分）

【第15回】

これまでの振り返りと総括試験による評価を行い、それらの内容に関する総評を行う。特に教育制度に関わる内容について中心に取りまとめる。

- ・教育制度のまとめ（総括試験と講評）

○これまでの総復習（240分）

テキスト

資料を適宜配布

参考書・参考資料等

坂田仰/黒川雅子共著『補訂版 事例で学ぶ”学校の法律問題”』教育開発研究所、2013年
篠原清昭編著『教育のための法学～子ども・親の権利を守る教育法～』ミネルヴァ書房、2013年

坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編『学校教育制度概論【第2版】』玉川大学出版部、2017年

学生に対する評価

評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。

○ふりかえり 12回×2点＝24点（学習目標の1、2、3に対応）

○中間確認試験 26点（学習目標の2に対応）

○総括試験 50点（学習目標の1、2、3、4に対応）

授業科目名：教育心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中亜裕子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 【科目の到達目標】 ①教育心理学における基礎的知識を獲得する。 ②教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができる。 。			
授業の概要 この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識を身に着けることを目的としています。 具体的には、教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション ・ 授業の目的と概要、評価 ・ 遠隔授業の進め方 第2回：教育心理学とは何か 学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域 第3回：記憶とは何か（第1章） 短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却 第4回：知識と思考（第2章） 表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知 第5回：子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第3章） 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化 第6回：「やる気」を出すには？（第4章） 期待 - 価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属			

第7回：学校という場で起きること（第5章） 教師の影響、仲間関係、教師 - 生徒関係 第8回：いじめはなぜおこるのか（第5章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの 第9回：どのように教えるか（第6章） 行動主義心理学：プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習 第10回：学校における「評価」とは何か（第7章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る 第11回：ヒトの発達について考える（第8章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期 第12回：知的発達のメカニズム（第9章） 知能指数、知能観、知能の発達 第13回：困難を抱える子どもたち（第11章） 知的障害、発達障害 第14回：人格発達の基礎（第10章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性 第15回：期末試験とそのまとめ
テキスト 「やさしい教育心理学 第5版」有斐閣アルマ 【 ISBN 】 9784641221468
参考書・参考資料等 適宜、紹介
学生に対する評価 Webclass課題…50%（第3回～第14回まで授業終了後の各回課題） 期末試験…50%

授業科目名：教育・学校心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中亜裕子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学習に関連しています。			
【科目の到達目標】			
①教育心理学における基礎的知識を獲得する。			
②学校における心理学の必要となる場面（スクールカウンセラー・学校保健師・教育相談センター等）における基礎的知識を獲得する。			
③教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができる。			
授業の概要			
この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識、公認心理師として必要とする学校での心理学の知識を身に着けることを目的としています。			
具体的には、教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
・ 授業の目的と概要、評価			
・ 遠隔授業の進め方			
第2回：教育心理学とは何か			
学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域			
第3回：記憶とは何か（第1章）			
短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却			
第4回：知識と思考（第2章）			
表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知			
第5回：子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第3章）			
古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化			

第6回：「やる気」を出すには？（第4章） 期待 - 価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属 第7回：学校という場で起きること（第5章） 教師の影響、仲間関係、教師 - 生徒関係 第8回：いじめはなぜおこるのか（第5章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの 第9回：どのように教えるか（第6章） 行動主義心理学：プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習 第10回：学校における「評価」とは何か（第7章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る 第11回：ヒトの発達について考える（第8章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期 第12回：知的発達のメカニズム（第9章） 知能指数、知能観、知能の発達 第13回：困難を抱える子どもたち（第11章） 知的障害、発達障害 第14回：人格発達の基礎（第10章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性 第15回：期末試験とそのまとめ
テキスト 「やさしい教育心理学 第5版」有斐閣アルマ 【 ISBN 】 9784641221468
参考書・参考資料等 適宜、紹介
学生に対する評価 Webclass課題…50%（第3回～第14回まで授業終了後の各回課題） 期末試験…50%

授業科目名：発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中亜裕子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
①各発達期における運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達について、具体的な内容を説明できる。			
②幼児、児童の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用と、発達に関する代表的理論を踏まえ、子どもの発達支援に必要な知識とその意義を説明できる。			
授業の概要			
この科目では、生涯発達心理学の立場（人間は生涯を通して成長し続けるという立場）から、胎児期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の過程において、各発達期の特徴と援助のあり方を理解することを目的とする。とくに乳幼児期における知能、気質、感情の心理学的理解を通して、子どもの発達支援に必要な知識の習得をねらいとする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 授業の進め方と、学びの概要について説明する。			
第2回：胎生期の発達1（胎児の発達と母体の変化（妊娠、出産）について学ぶ。） DVD視聴:小さな生命の詩			
第3回：胎児期の発達2（胎児の発達と母体の変化（妊娠、出産）について学ぶ。） 胎生期、免疫寛容、胎児の発達、低出生体重児、体内環境、妊婦健診 グループワーク課題：胎児期の発達の基礎知識について説明する。			
第4回：新生児期～乳児期の育ち1（新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ） DVD視聴：「赤ちゃんの不思議な世界」			
第5回：新生児期～乳児期の育ち2 新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 生理的早産、ネオテニー、原始行動、赤ちゃんの気質、視覚的断崖の実験、認知発達、運動発達、共鳴動作、微笑、言語の発達、自己認知、共同注意 グループワーク課題：新生児期の発達の基礎知識について説明する。			
第6回：新生児期～乳児期の育ち3 新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 愛着理論、内的作業モデル、ハーロウの代理母親の実験、社会的参照、母子相互作用、父親の			

存在

グループワーク課題：乳児期の発達の基礎知識について説明する。

第7回：幼児期の育ち1

DVD「里っ子たち」視聴

幼児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。

第8回：幼児期の育ち2

幼児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。

身体発育、発達課題、認知発達、心の理論、思考の特徴、言語発達、第一次反抗期、退行、仲間関係

グループワーク課題：幼児期の発達の基礎知識について説明する。

第9回：児童期の発達1

児童期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。

DVD視聴：「里山の学校」

第10回：児童期の発達2

児童期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。

運動機能・技能の発達、認知発達、思考の発達段階、人間関係、役割取得、自己意識と自己理解

グループワーク課題：児童期の発達の基礎知識について説明する。

第11回：発達障害の理解と対応

知能検査について知り、発達障害の理解と対応を学ぶ。

知能分類、知能検査、知的障害、発達障害、発達支援

グループワーク課題：発達障害に関する心理学的支援の方法について説明する。

第12回：子ども臨床

子ども臨床の基礎事項について学ぶ。

援助に際して必要な情報、遊戯療法、8つの基本原理

グループワーク課題：メンタル面での問題を抱えた子どもと親への心理学的支援について説明する。

第13回：青年期

青年期の発達課題と、青年期の心理発達について学ぶ

性的発達、思考の発達、時間的展望、友人関係、自己意識、アイデンティティの確立

グループワーク課題：青年期の発達の基礎知識について説明し、自己分析を行う。

第14回：成人期、老年期

成人、高齢者の発達課題と、社会的問題について学ぶ。

知的能力の変化、中年期の危機、結婚・育児をめぐる問題、発達段階、退職生活への適応、老年期の人格的变化、死をみつめる

グループワーク課題：成人期、老年期の発達の基礎知識について説明する。 第15回：総括試験とふりかえり
テキスト 「やさしく学べる乳幼児の発達心理学：妊娠、出産から子育てまで」 田中亜裕子著 創元社
参考書・参考資料等 適宜、紹介
学生に対する評価 Webclass課題・・・30%（第2回～14回の授業終了後に） DVD感想：20% 期末テスト・・・50%

授業科目名：特別支援教育基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：梶正義
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 各種障害の定義・特性等の知識を習得する。			
・ 特別な教育的支援を要する児童生徒の教育的ニーズを理解する。			
・ 学校での指導体制・支援方法などについて理解し、インクルーシブ教育を推進するための知識を習得する。			
上記の目標を達成することで教員として必要とされる専門的知識・技能を身につけて学校現場で活用することができる。			
授業の概要			
この講義では、特別支援教育の対象となる各種の障害の主な特性（定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う学習上または生活上の困難、そして、必要とする教育的ニーズなど）と共に、インクルーシブ教育の推進について解説し、学校の組織や教員等が必要とする知識やスキルを理解する。			
また、最近の教育的課題となっている通常の学級に在籍する発達障害（LD=学習障害、ADHD=注意欠如多動性障害、高機能自閉症など）や障害はないが特別な支援や配慮を要する児童生徒（来日・帰国した子ども・LGBTの子ども・経済的貧困状態にある子どもなど）についても望ましい特別支援教育の在り方を概説する。			
授業計画			
第1回：特別支援教育の基本的理念・制度・仕組みなど			
特別支援学校・幼小中高等学校における特別支援教育（組織と指導体制など）			
インクルーシブ教育の推進			
第2回：特別支援教育の基礎知識①			
＜視覚障害・聴覚障害＞			
定義・発達特性や認知特性、特別支援の方法に関する例示、及びそれに伴う教育的ニーズなど			
第3回：特別支援教育の基礎知識②			
＜知的障害・肢体不自由＞			
定義・発達特性や認知特性、特別支援の方法に関する例示、及びそれに伴う教育的ニーズなど			
第4回：特別支援教育の基礎知識③			
＜病弱・身体虚弱・情緒障害・言語障害＞			

定義・発達特性や認知特性、特別支援の方法に関する例示、及びそれに伴う教育的ニーズなど

第5回：特別支援教育の基礎知識④

＜発達障害（学習障害（LD）・注意欠如多動性障害（ADHD）・高機能自閉症）＞

定義・発達特性や認知特性、障害に応じた指導形態と自立活動（通級による指導の位置づけ、自立活動に関する支援の方法）、及びそれに伴う教育的ニーズなど

第6回：特別支援教育の基礎知識⑤

＜来日外国人の児童生徒・帰国した児童生徒・LGBTの児童生徒・貧困による教育的ニーズを有する児童生徒の現状＞

母語や日本語の指導体制および必要とする支援の在り方・LGBTの理解とその支援・貧困により生じる教育的課題の理解とその支援

第7回：個別の教育支援計画と個別の指導計画

＜意義とその作成＞

個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成

米国の教育におけるIEPとの相違

第8回：これまでの総括

テキスト

特に教科書は使用しない。毎回授業資料を配付する。

参考書・参考資料等

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省（2018）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省（2018）

特別支援学校 高等部学習指導要領 文部科学省（2019）

特別支援教育の基礎基本（新訂版）国立特別支援教育総合研究所（2018）ジアース教育新社

学生に対する評価

①中間レポート 50%

②総括レポート 50%

授業科目名：教育課程論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：廣岡義之
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメント含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
（授業のテーマ）教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、について、基本的な理解ができるようになることをめざす。 （到達目標） ・わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について把握する。 ・教育課程の意義と目的について理解する。 ・教育課程及び学習指導要領編成の内容について理解を深める。 ・現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を把握する。			
授業の概要			
元来、「教育課程」とはカリキュラムすなわち、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。そこで本科目では、教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について概説する。受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。			
授業計画			
第1回：本講義のオリエンテーション			
第2回：教育課程の意義（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）			
第3回：学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（1）：戦後からゆとり教育まで			
第4回：学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（2）：ゆとり教育から新学習指導要領まで			
第5回：教育課程編成の教育目的・目標（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）			
第6回：教育課程の諸類型について（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）			
第7回：教育課程の編成の方法（幼稚園）（カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む）			
第8回：教育課程の編成の方法（小学校）（1）：学習指導要領の特徴（カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む）			
第9回：教育課程の編成の方法（小学校）（2）：現代的意義（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）			

第10回：教育課程の編成の方法（中学校・高等学校）（カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む）

第11回：世界各国の教育課程

第12回：最新学習指導要領総則の解説（1）：改訂の経緯および基本方針

第13回：最新学習指導要領総則の解説（2）：改訂の要点

第14回：最新学習指導要領総則の解説（3）：教育課程の実施と学習評価

第15回：確認テストとまとめ（教育課程の今後の課題と展望について）

テキスト

広岡義之著、『新しい教育課程論概説』 あいり出版

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）

文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）

文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房（平成30年3月）

学生に対する評価

1. 授業参加態度（50％）

①授業内容の「メモをとる」等ができる（30）

②これらに加えて受講態度がきわめて積極的である（20）

2. 復習テスト（50％）

①初等教育の基礎的な概念を説明できる（30）

②これらに加えて初等教育の専門的な概念を説明できる（20）

・上記項目を総合的に評価する。

授業科目名：総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：常陰則之
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
具体的には、以下の内容の理解・修得を目指す。 ○総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割についての理解・修得（教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から）。 ○学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに、各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点についての理解・修得。 ○各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性についての、具体的な事例を通じた理解・修得。 ○主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性についての、具体的な事例を通じた理解・修得。 ○探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解・修得。 ○総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点についての理解・修得。			
授業の概要			
「総合的な学習の時間」は、実社会・実生活の課題を、広範な視野、多様な視点から捉え、各教科等で育まれてきた様々な事物・事象への認識・理解・思考・判断・表現・処理などの諸力を横断的に働かせながら探究し、具体的な解決や実現を目指す学びを通して、よりよい自分たちの生き方考え方行動の在り方を主体的創造的共同的に模索し続ける資質・能力の育成を目指す学習活動である。 本授業ではまず、そうした学習活動の本質的な目的・意義やそれに沿った基本的な実施要件を押さえ、それらを特徴的な実践事例や自身の学習経験・記憶などに照らし合わせることで、導入以来の成果と問題点を明らかにする。そしてその上で、あらためて元来のねらいや指針を具現化し「アクティブラーニング」として活性化していくための必須課題の重要性を理論的に理解し、指導・支援者として当該学習活動に正対していくアプローチの視座を確立すると共に、それらに対する具体的方策を実践力の基盤として獲得していく。			
授業計画			
第1回：「総合的な学習（探求）の時間」ガイダンス ○ 意義と目標、学習指導要領とその法的仕組み、各教科・校務分掌との関連（講義・グループワーク） 目標・内容を定める際の考え方や留意点 ○ 教育課程への位置づけと学習原理（講義・グループワーク） 教科を越えて必要となる資質・能力			
第2回：全体計画とカリキュラム・マネジメント			

「総合的な学習（探求）の時間」の年間指導計画と評価

○ 年間指導計画、実践、評価の在り方、指導技術のまとめ（講義・グループワーク）

各教科等との関連を図った年間指導計画

生徒の学習状況の分析と評価

○ アクティブラーニングによる授業改善（講義・グループワーク）

グループワークのプロデュースとマネジメント

グループワークによる探究サイクルの構築

グループワークにおける論理性の獲得

○ 実施後の経緯と現状としての諸課題（講義・グループワーク）

第3回：単元の指導計画

仮想テーマの設定

○ 高等学校における「総合的な学習（探求）の時間」（講義・ペアワーク・グループワーク）

「命の大切さ」を実感させる教育

キャリア教育

探究活動

○ 実社会や実生活の諸課題に基づいてグループで共有する「テーマ」の立ち上げ（グループワーク）

探究諸課題に基づいて、具体的に取り組むべき体験学習や調べ学習などを見極め、役割分担の中に意識化

第4回：事例の紹介（いじめ・自殺予防、命の大切さ、探求、キャリア教育、NHK for School）

年間指導計画及び実践案Ⅰ

○ 教科等との連携による「知識・言葉」の学びの学際（横断）化（講義・グループワーク）

テーマ設定と各教科・領域との関連、単元構成の在り方、単元構成の具体

第5回：指導の工夫

年間指導計画及び実践案Ⅱ

○ 機能的体験活動による「実際・生活」の学びとの一連化（講義・グループワーク）

テーマ設定と展開、地域との連携

第6回：評価の在り方

単元案の作成Ⅰ

○ ICTの活用（講義・グループワーク）

有効な手立ての選択と活用力の伸長

○ 単元案の作成（ペアワーク・グループワーク）

PDCAサイクルを活用した展開など

第7回：単元の紹介と単元の指導計画の作成

単元案の作成Ⅱ

○ 単元案の作成（グループワーク）

生徒を意識しながら

○ 単元案プレゼンの作成（グループワーク）

生徒・教師を意識しながら

第8回：単元の指導計画の作成・発表

プレゼン発表、相互評価

○ 単元案プレゼン発表（個人またはグループ）

○ 単元案プレゼン相互評価・教員講評

○ 授業のまとめ

テキスト

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説【総合的な探究の時間編】（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説【総合的な学習の時間編】（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm

今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 高等学校編 ―総合的な学習の時間を核とした課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等向上に関する指導資料―（文部科学省、教育出版） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm

参考書・参考資料等

高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm

改訂版「命の大切さ」を実感させる教育への提言（兵庫県教育委員会）

<https://www.hyogo-c.ed.jp/~inochi/index.html>

SSH研究開発実施報告書（兵庫県立加古川東高等学校）

https://www.hyogo-c.ed.jp/~kakohigashi-hs/sciencemath_ssh.html

学生に対する評価

①適時数回提出する「講義内容総括（小レポート）」での記述内容＜40%＞

②各回授業での受講態度（様々なねらいや形態で行われるグループワークやアクティビティーへの主体的参加・貢献の様子を含む）＜20%＞

③「最終個別課題：講義の主題や重点事項を形式や内容に充分反映させた学習指導単元案（具体的な要件等については最終段階の講義内で説明）」の量的・質的完成度＜40%＞

以上により総合的に評価する。但し、「受講態度が好ましくない」「最終個別課題を提出していない」等の場合は、評価の対象とならない。

授業科目名：特別活動 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松田忠喜 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 特別活動の教育的意義を理解した上で、特別活動の目標を具現化する方法を明らかにし、実践的な指導力を身に付ける。 ①特別活動の教育的意義や目標・内容を列挙することができる。 ②模擬授業、具体的事例などを通して指導方法の在り方を探求し、実践に生かせる指導力を身に付けることができる。 ③自主的、主体的に授業に参加し、教育の今日的課題の解決に向けて、特別活動の果たすべき役割を説明できる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力			
授業の概要 【目的】 特別活動は、小・中・高・特別支援学校の教育課程に位置付く教育活動です。したがって、学校現場では、自分が担当する教科に関わらず、すべての教師が特別活動の指導にあたることになります。 そこで、本授業では、特別活動の教育的意義や目標・内容、指導法や評価の在り方等について理解し、実践的な指導力を身に付けるとともに、学びを今後の自己の生き方に生かすことができるようにします。 【概要】 近年、情報化・少子高齢化など急速な社会変化の中で、人間関係の希薄化が進み、子どもたちの自主性、社会性などを身に付ける機会が激減しています。そこで、多様な集団活動や体験活動を通して「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を三つの視点とする特別活動の果たす役割を追究します。 本授業では、新学習指導要領に基づいて行いますが、一方的な講義ではなく、3分間スピーチをはじめ、ともに考え・話し合う場や実際に学級会を行う実践的な活動など学生側の自主的、主体的な活動を織り交ぜながら、特別活動の指導法を身に付けていきます。			
授業計画			

【第1回】

・オリエンテーション（本授業の目標・内容、進め方、評定算出方法の確認、受講上の留意点についてなど）

- ・3分間スピーチの実施方法、振り返りカードの記入の仕方など
- ・特別活動とは（教育課程における特別活動の位置づけとその意義）
- ・なぜ特別活動が重要なのか
- ・学級経営や生徒指導と大きく関わる特別活動

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【第2回】

- ・特別活動の歴史的変遷
- ・【グループワーク】子どもたちを取り巻く現状と課題から見た特別活動への期待と役割

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【第3回】

- ・特別活動に関わる指導理論
- ・【グループワーク】特別活動の教育的意義

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【第4回】

- ・特別活動の目標
- ・特別活動の内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【レポート作成】特別活動の目標と内容

*手書きで作成し、第11回授業までに提出

【第5回】

学級活動・ホームルーム活動（1）

- ・目標・内容、全体計画・年間指導計画、指導上の留意点

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

*次回のディスカッション（話し合い）で使用する「学級活動・ホームルーム活動における学級会の議題」を考えておく。

【第6回】

学級活動・ホームルーム活動（2）

- ・「話し合い活動」の指導ポイント

- ・【ディスカッション（話し合い）】：次回話し合う学級会の議題決定（合意形成の実際）

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【宿題】学級会プリントの作成

＊作成したプリントを次回の模擬授業で使用

【第7回】

学級活動・ホームルーム活動（3）

- ・【演習】模擬授業（学級活動・ホームルーム活動：話し合い活動「学級会」）

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【第8回】

生徒会活動

- ・目標・内容、指導計画、指導上の留意点

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【第9回】

学校行事

- ・目標・内容、指導計画、指導上の留意点

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【第10回】

- ・特別活動と生徒指導
- ・学級経営との関連
- ・特別活動における人間形成と部活動
- ・【グループワーク】生徒指導や学級経営に大きく関わる特別活動のあり方

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【第11回】

- ・特別活動と各教科との関連
- ・特別活動と総合的な学習（探究）の時間との関連
- ・特別活動と道徳教育

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【第12回】

- ・特別活動におけるキャリア教育

- ・言語活動の充実
- ・学級活動・ホームルーム活動（話し合い活動）における指導案作成の実際

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【宿題】学級会プリントの作成

＊作成したプリントを次回の模擬授業で使用

【レポート作成】指導案作成

＊第14回授業までにWebClassから提出

【第13回】

学級活動・ホームルーム活動（4）

- ・【演習】模擬授業（学級活動・ホームルーム活動：話し合い活動とゲーム集会活動）
- ・最終レポート課題の提示と説明

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【最終レポート作成】レポート課題の提示と作成

【第14回】

- ・特別活動の評価
- ・家庭、地域社会、関係機関との連携

復習：今回の復習、授業ノートの整理

予習：次回の予習（教科書、WebClassで資料を事前提示）

【最終レポート作成】

【第15回】

- ・【グループワーク】これからの学校教育と特別活動
- ・特別活動の指導法のまとめ

復習：今回の復習、授業ノートの整理

【最終レポート提出】

テキスト

21世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む 特別活動の理論と実践 第3版

中園大三郎・松田修 編著

学術研究出版 2000円（税抜） ISBN 978-4-910733-90-6

参考書・参考資料等

①文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」（東山書房・2017年）

②文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」（東山書房・2018年）

③文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」（東山書房・2017年）

④文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編」（東京書籍・2018年）

⑤文部科学省「学級・学校文化を創る特別活動 中学校・高等学校編」（東京書籍・2023年）

⑥杉田洋 「よりよい人間関係を築く特別活動」（図書文化社2009年）

⑦国立教育政策研究所「学級・学校文化を創る特別活動 学級活動の基本 中学校編」（国立教育政策研究所HP・2016年）

⑧国立教育政策研究所「学級・学校文化を創る特別活動 ホームルーム活動のすすめ 高等学校編」（国立教育政策研究所HP・2018年）

*①～④は文部科学省のHP、⑦⑧は国立教育政策研究所のHPにも載せられています。

学生に対する評価

評価に当たっては、上記18に示した学習目標①②③の達成度を授業中の取り組みも含めて総合的に行います。

1. 評価の方法

- ・毎回の振り返り内容、小レポート、最終レポート、授業での役割等

2. 成績の配分

・模擬授業、3分間スピーチ、グループワーク、役割分担等の主体的な参加（学習目標②③に対応）【15%】

・授業での提出物（小レポート）（学習目標①②に対応）【20%】

・毎授業後に記入して提出する「振り返り」の内容（学習目標①②③に対応）【25%】

・最終レポート（学習目標①②③に対応）【40%】

3. 単位認定の要件

以上の合計点が60点以上を合格とします。

授業科目名：教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中嶋康二
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育方法の基本原理に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切なICT活用を盛り込むことができる。			
授業の概要			
本科目では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどのICTを教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に生きる知識とスキルを身につけます。 くわたくしが「教えたか？」よりも、子どもたちが「学んだか？」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行う。また、各回の作業では、LMSなどICTツールを活用することで利用効果を実際に経験する。			
授業計画			
第1回 本科目の授業デザインについて解説／これからの子どもたちに育みたい資質 能力（情報活用能力を含む）について 第2回 教師に求められる授業力とは／授業の魅力を高めるICTの活用／主体的学びの促進 第3回 授業デザインの基本形について学ぶ／「メーガー 3つの質問」「ガニエ 9教授事象」など 第4回 演習：授業企画を書き出し／相互レビュー／学習目標の分類 第5回 学習目標の構造化と系列化／演習：学習課題分析図の作成方法 第6回 演習：学習課題分析図を作成／相互レビュー 第7回 評価方法：学習目標と適切に対応させる			

第8回 学習環境／デジタルコンテンツの役割／教室内外の対話・協働を支えるICTの活用（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む）など

第9回 主体的な学習活動／「ケラーARCSモデル」／ICTによる学びの保障「キャロル 学校学習時間モデル」／オンライン授業の意義と活用方法

第10回 ICTの使い方を教える／情報モラル・セキュリティ教育の重要性／これからの学校・教師の役割／大学との連携等による外部の教育リソースの活用について

第11回 ICTを使った授業の検討／学校のICT環境の整備／ICT環境や効果的なICT活用の事例／ICTを活用した指導方法

第12回 演習：「学習指導案のための授業デザイン」ワークシートの作成方法／演習：各回の授業内容検討シートの作成（ICT活用の適用検討を含む）

第13回 情報活用能力のカリキュラムマネジメント／校務におけるICT活用

第14回 演習：最終課題「学習指導案のための授業デザイン」ワークシートのブラッシュアップ作業／授業デザイン案（最終課題の学修成果）をグループ内相互レビュー

第15回 学んだ事項の総括／授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり

テキスト

『教育の方法と技術Ver. 2～IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著，北大路書房，2022年

学習指導要領「生きる力」：文部科学省

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm)

参考書・参考資料等

『ICT活用の理論と実践－DX時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著，北大路書房，2021年

『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀，三省堂，2019年

その他、授業中に適宜紹介します。

学生に対する評価

① オンライン知識テスト（学習目標①②③④に対応）20%

② 中課題：学習課題分析図（学習目標②に対応）20%

③ 小課題①：学習指導計画案（学習目標③に対応）10%

④ 小課題②：ICT活用授業案（学習目標④に対応）10%

⑤ 最終課題：学習指導案検討シート（学習目標①②③④に対応）40%

授業科目名：生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：佐藤雄一郎、平井秀幸
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の学習目標はDPの（３）多様性理解（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連します。			
本科目の学習目標は次のとおりです。			
①生徒指導の構造や目標を教育活動全体と関連付けながら理解できる。			
②自分なりの生徒指導の具体的な進め方を身に付けることができる。			
③キャリア教育の理論を理解し、具体的な指導手順を身に付けることができる。			
授業の概要			
【目的】・生徒指導の定義、構造と目的、各教科等及び教育課程との関連性を理解させる。			
・キャリア教育推進の経緯及びその理論や具体的な指導方法を理解させる。			
※全体を統括する主たる担当は佐藤とし、各授業回については分担して担当する。ただし、授業の進度に応じて各授業回の担当は柔軟に対応する。			
【概要】・講義で学んだ理論等を踏まえ、具体的な対応例を考えていく。			
・さまざまな事例への対応策を考え、グループで課題等について検討する。			
・これからの生徒指導及びキャリア教育の在り方を自分なりに考えて見る。			
授業計画			
第1回			
○オリエンテーション（・本講義の内容、目標、評価の方法・講義の進め方・受講する上での注意点・使用テキストについて）			
○生徒指導の定義と目的について			
○生徒指導の実践上の視点について			
○生徒指導の構造について			
復習：今回の復習、授業プリントの整理			
予習 生徒指導体験発表の準備			
（主担当：佐藤、平井）			
第2回			

○生徒指導の基礎について

- ・生徒指導の方法（集団指導と個別指導）
- ・生徒指導の基礎（教職員の協働性）
- ・生徒指導の取組上の留意点（生徒の権利の理解、ICTの活用）

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習（課題）第1回レポートの作成

（主担当：佐藤、平井）

第3回

○生徒指導と他の教育課程との関連性

- ・学習指導要領「総則」と生徒指導について
- ・生徒の発達をささえる教育課程について
- ・教科指導と生徒指導の関連性について
- ・道徳科を要とした道徳教育における生徒指導について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習 次回の予習

（主担当：佐藤、平井）

第4回

○「総合的な学習の時間」と「特別活動」と生徒指導

- ・総合的な学習の時間と生徒指導の関連性について
- ・特別活動における生徒指導の位置づけについて
- ・学級活動、HR活動、生徒会活動、学校行事と生徒指導の関連性
- ・特別活動におけるキャリア教育との関連性について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習 次回の予習、第1回レポート持参

（担当：佐藤）

第5回

○学校における生徒指導体制1

- ・チーム学校における生徒指導について
- ・学校における生徒指導体制（生徒指導主事、職員研修）について
- ・教育相談体制について
- ・生徒指導と教育相談が一体となった学校組織について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習 次回の予習、第2回レポート作成

(主担当：佐藤)

第6回

○学校における生徒指導体制2

- ・危機管理体制（学校安全、安全教育）について
- ・生徒指導に関する法制度（校則、懲戒等）の運用体制について
- ・学校・家庭・関係機関との連携・協働について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習 いじめに関する体験、発表の準備

(主担当：平井)

第7回

○個別の課題に対する生徒指導1（いじめの実態と対応）

- ・いじめの防止対策推進法について
- ・いじめの防止等の対策のための組織と計画について
- ・いじめに対する重層的支援構造について
- ・関係機関との連携体制について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理、視聴VTRの感想をまとめる

予習 次回の予習、第2回レポート持参

(主担当：平井)

第8回

○個別の課題に対する生徒指導2（暴力行為の実態と対応）

- ・暴力行為に関する対応指針等について
- ・学校の組織体制と年間指導計画について
- ・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造について
- ・関係機関との連携体制について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習 次回の予習

(主担当：佐藤)

第9回

○個別の課題に対する生徒指導3（少年非行の実態と対応）

- ・少年法・児童福祉法等について

- ・少年非行に対する視点について
- ・少年非行への対応の基本について
- ・関係機関との連携体制について
- ・喫煙・飲酒・薬物乱用について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習 次回の予習、第3回レポート作成

(主担当：佐藤)

第10回

○個別の課題に対する生徒指導4（児童虐待）

- ・児童福祉法・児童虐待の防止に関する法律について
- ・学校の体罰防止について
- ・児童虐待生徒の発見について
- ・児童虐待の通告義務及び関係機関との連携体制について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習 次回の予習

(主担当：佐藤)

第11回

○個別の課題に対する生徒指導5（自殺、中途退学、不登校の実態）

- ・自殺対策基本法について
- ・自殺防止の学校の組織体制と年間指導計画について
- ・中途退学の関連法規と中途退学の理解について
- ・不登校に関する関連法規及び学校の対応や指導計画について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理、学習指導要領の確認

予習 次回の復習、第3回レポート持参

(主担当：平井)

第12回

○個別の課題に対する生徒指導6（インターネット、携帯電話等）

- ・インターネットをめぐる課題に対する関係機関との連携体制について
- ・性に関する法律・方針等及び学校における指導について
- ・性犯罪等に関する重層的支援構造及び性的マイノリティへの対応について
- ・発達障害や精神疾患に関する理解と対応について
- ・健康問題に関する理解と対応について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理

予習 次回の復習、中学時代の進路指導の体験のまとめ

(主担当：平井)

第13回

○進路指導とキャリア教育について

- ・キャリア教育と進路指導の違いについて
- ・キャリア教育推進の背景及びキャリア教育が目指すもの
- ・「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」の育成へ
- ・勤労観・職業観の育成について
- ・進学と就職における進路選択の関係について

復習 今回の復習及び授業、プリントの整理、学習指導要領の確認

予習 次回の予習

(主担当：佐藤、平井)

第14回

○小中高等学校におけるキャリア教育の具体的な進め方

- ・小中高等学校におけるキャリア発達の違いと目標について
- ・中学校におけるキャリア教育のポイント及び実践例について
- ・高等学校におけるキャリア教育のポイント及び実践例について

復習 今回の復習及びこれまでの授業プリントの整理

予習 トライやるウィーク体験の発表準備

(主担当：佐藤、平井)

第15回

○これからのキャリア教育の進め方と確認テスト

- ・キャリア教育における家庭、地域、企業、職能団体との連携について
- ・これまでの学習内容を踏まえ、生徒指導・キャリア教育に関する基礎的知識の確認。
- ・自分なりの生徒指導及びキャリア教育の指導方法をまとめる。

復習 今回の復習及びこれまでの授業プリントの整理

- ・最終課題提出の確認、出席時数の確認

(担当：佐藤、平井)

テキスト

- 1 「生徒指導提要令和4年12月年改訂版」(文部科学省ホームページ)
- 2 「中学校のキャリア教育の手引き」(教育出版)平成23年5月
- 3 「教育方法と技術・教育課程」(協同出版)令和3年5月

参考書・参考資料等

1. 毎回授業プリントを配布。その他の関連資料は授業中にその都度配布や照会します。
2. 「中学校学習指導要領」（文部科学省）平成30年3月

学生に対する評価

- ・課題レポート 3回 40点
- ・授業中の課題発表 10点
- ・最終確認テスト 50点
 - 専門用語の理解（選択問題及び記述問題） 30点
 - 課題への論述問題 20点

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩岡眞弘
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目の学習目標は次の通りです。 1学校における教育相談の意義と理論を説明することができる。 2教育相談を進める際に必要なカウンセリングの基礎知識を説明することができる。 3教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を説明することができる。			
【関連するディプロマ・ポリシー】 (2)社会的責任性、(3)多様性理解、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力、			
授業の概要			
【目的】 この科目は、教師として活動する際に必要な、カウンセリングの意義・理論や技法を身につけることを目的とする。			
【概要】 教育相談は、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。本授業では、児童・生徒の教育上の問題に関し、教師が、適切な援助を実施するために何が必要かを、理論や事例を通して学修する。			
授業計画			
第1回：教育相談とは 児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化に対し、学校が対応するための教育相談の意義と必要性を説明する。			
第2回：教育相談で大切なもの 現代社会における児童生徒の状況を理解し、多様な専門家の支援による相談体制と教員一人一人の意識を高める要素をつくっていくことによる大切さを学ぶ。			
第3回：子どもたちを支えるための連携 ・複雑化する子どもたちの問題 ・多様な専門家との連携 児童生徒の置かれている状況や抱えている問題・悩みに応じてそれぞれの専門家がその専門性を生か			

して対応する。

第4回：子どもの発達と大人の関わり的重要性

子どもの発達に伴う多種多様な相談内容は際限がなく、心身の成長過程における身体的特徴や性格、友人関係、学業の成績や部活動、将来の進路に関すること、家庭生活や病気に関することなどさまざまであり、それらとの関わり方における具体的な手法や対応者、個人情報管理など関わり方を考える。

第5回：不登校への支援

いじめや不登校への早期対応のための教育相談体制の充実化の方法を模索する。

特に小学校段階における早期段階の対応を充実させていく。

第6回：いじめへの対応

いじめの傾向や原因を確認し、教育相談に関する校内体制の充実と生徒指導上の予防的な観点の意義を学ぶ。

特に小学校段階における早期段階の対応を充実させていく。

第7回：問題行動や非行への対応

問題行動や非行に至る児童生徒の意味とそれに気づくためのシグナルを見逃さないようにするための知識を身につける。

とりわけ、昨今は様々な要因が絡み合って発生するケースが多いため、それらの要因を一つずつ紐解いていく。

第8回：個別の理解と支援

児童生徒の内面に抱え込みやすく、自力では適切に対処できないケースに対して、個別に理解して支援するための環境と姿勢づくりを学ぶ。

第9回：児童虐待への対応

児童虐待や家庭内暴力（DV）により心身にわたる被害を受ける児童生徒への対応は大きな課題となっている。それらの発見と対応を行えるようにするために、児童とのコミュニケーションによって気軽に相談できる体制を整え、発見した際への対応方法を身につける。

第10回：保護者との関わり

児童生徒への問題発覚は保護者との関わりが大きく影響する。

児童虐待や家庭内暴力（DV）への気づき、児童のいじめに関する保護者からの報告、発達障害への理解共有等、様々な問題点への関係性を持つことを示し、保護者に対して教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することについて学ぶ。

第11回：危機場面での対応

教育相談の計画の作成や必要な校内体制を整えることで、未然に防ぐあるいは早期で解決することを前提としつつ、突発的な対応が求められた際への学校内外における連携体制や指導・対応に関する効果的な姿勢と意識を学ぶ。

第12回：心理的不適応と心理アセスメント

学校内外における児童生徒の状況を把握することで、心理的不適応の状況が起こっているのかどうかを見分けるための知識、手法としての心理アセスメントを身につける。

第13回：心理療法の基礎

実際に発生した問題に対応するための心理療法（カウンセリング）の基礎知識を理解する。

第14回：開発予防的教育相談

教育相談の段階的な側面における開発的な側面と予防的な側面について身につけ、学校における教員としての基本的な教育相談の意義と理論を身につける。

第15回：まとめ

期末試験並びにこれまでの授業の内容の振り返りとまとめ

テキスト

「現場で役立つ教育相談入門」（2023）春日由美, 五十嵐亮（編著）, 北樹出版

* ISBN-10 : 4779307279

* ISBN-13 : 978-4779307270

参考書・参考資料等

「生徒指導提要」（令和4年12月改訂）文部科学省

学生に対する評価

1. 平常点（授業に関する発言、質問、毎回のコメントシート） 50%
2. 期末試験 50%

シラバス：教職実践演習（中・高）

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2単位		担当教員名：片山真理	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 20人(1クラスで実施)					
教員の連携・協力体制 単独、ただし教職教育推進室にあたっている教員の授業外でのバックアップ体制はある。					
授業のテーマ及び到達目標 これまで学んだ教職や専門の知識を統合し、教育実習での経験を踏まえて、将来の教員としての準備に活かす。					
授業の概要 【授業の概要】 教職実践演習は、教職課程に組み込まれている他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するもので、いわば4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられています。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。 ○学習指導について、模擬授業、ロールプレイ、授業参観、学習指導案、教材研究等により授業力を高めます。 ○学級経営・生徒理解のために、現職教員の講話、実践事例研究、討論等により理解力・指導力を高めます。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付けます。 ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解し、自覚を促します。 【学修目標】 ○教材研究の方法を理解し、授業のスキルを磨く ○学校を取り巻く様々な問題などについて理解する ○学校の服務、校務分掌などを知る ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解する ○教員として自分に不足していることを自覚し、どう伸ばすか、補うか、考える					

授業計画	
【第1回】	イントロダクション 4年間の学修の振り返り 「履修カルテ」による現状把握、教育実習終了までの記録作成
【第2回】	教師に求められる資質（1） 学校現場で求められる教師像―教員の役割と責務 教育実習の総括と分析
【第3回】	教師に求められる資質（2） 各地方自治体が求める教師像
【第4回】	教師に求められる資質（3） 具体的な教師像として、それに到達するための方策を検討する
【第5回】	教師に求められる資質（4） ICTの活用とスキルブラッシュアップ
【第6回】	学校の組織内の人間関係や、保護者、地域社会の関係者などのかかわり 教育問題とクレイマー・ペアレナツに対する対処法
【第7回】	講話(現職教員の体験談) *スケジュールは変更になることもあります
【第8回】	学級経営の理論と生徒理解
【第9回】	学級経営案の作成（グループ討論）
【第10回】	学級経営上の問題点
【第11回】	教材作成（学習プリント、ワークシートづくりなど）と模擬授業
【第12回】	教材作成（学習プリント、ワークシートづくりなど）と模擬授業
【第13回】	教師に求められる教科指導能力とは ICTリテラシーから学ぶ普遍的教科指導力と特徴的教科指導力の違い
【第14回】	自己研鑽、研修について 「履修カルテ」を使った個別最適な指導
【第15回】	求められる教師の資質能力について 「教職実践演習から学べたこと」 「履修カルテ」の最終取りまとめ
テキスト	
各授業時に教材としてプリントと資料を配布する。	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
発表 20%	
課題レポート40%	
教職の意義と使命・責任感について、生徒理解についての評価 20%	
教育実習の分析と考察 20%	
*教職カルテの最終版を、授業最終回にファイルで提出すること	

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。